

第2章 高齢者一般調査

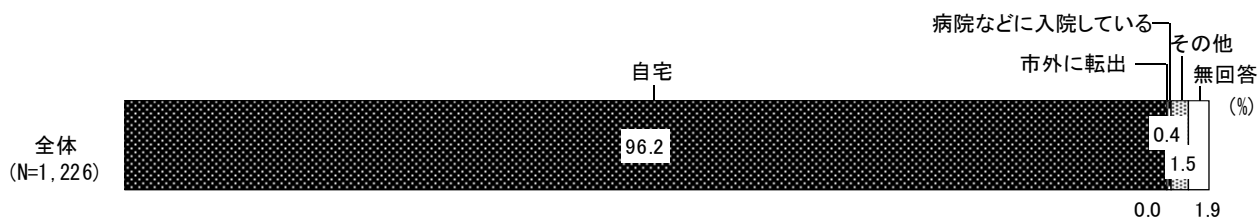
1 基本属性

(1) 現在の生活場所 (F 1)

現在の生活場所は、「自宅」が96.2%、「病院などに入院している」が0.4%となっている。

(図表2-1-1)

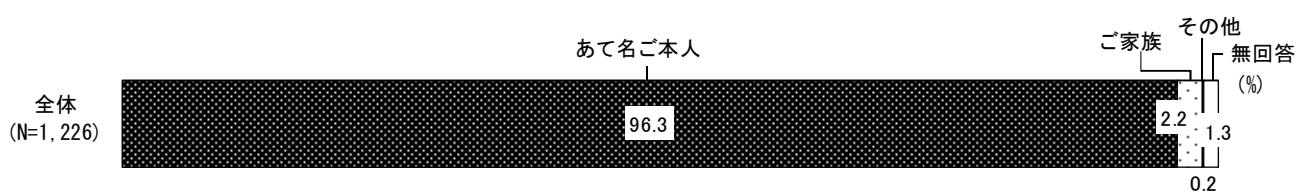
図表2-1-1 現在の生活場所 (全体)



(2) 調査票の記入者 (F 2)

調査票の記入者は、「あて名ご本人」が96.3%、「ご家族」が2.2%となっている。(図表2-1-2)

図表2-1-2 調査票の記入者 (全体)



(3) 性別 (F 3)

性別は、「男性」が43.3%、「女性」が56.0%となっている。(図表2-1-3)

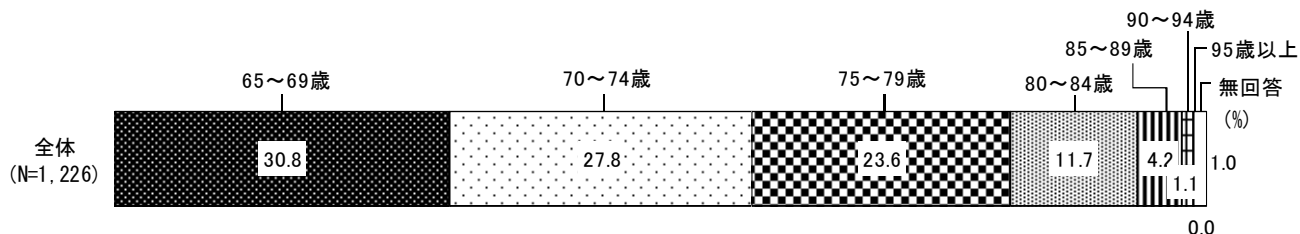
図表2-1-3 性別 (全体)



(4) 年齢 (F 4)

年齢は、「65～69歳 (30.8%)」が最も多く、「70～74歳 (27.8%)」、「75～79歳 (23.6%)」、「80～84歳 (11.7%)」が続いている。(図表2-1-4)

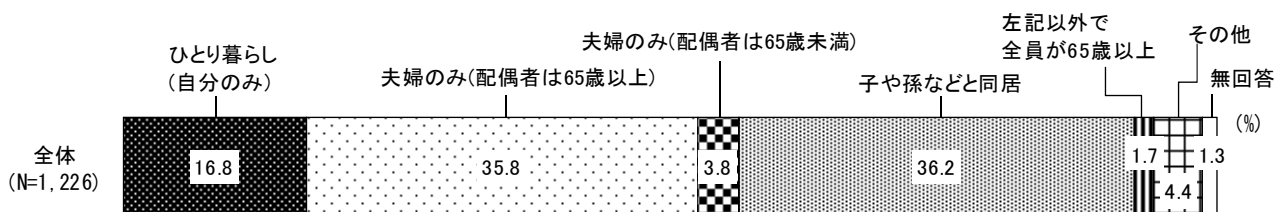
図表2-1-4 年齢 (全体)



(5) 世帯状況 (F 5)

世帯状況は、「子や孫など同居 (36.2%)」と「夫婦のみ (配偶者は65歳以上) (35.8%)」がともに3分の1以上を占めている。次いで、「ひとり暮らし (自分のみ) (16.8%)」、「夫婦のみ (配偶者は65歳未満) (3.8%)」となっている。(図表2-1-5)

図表2-1-5 世帯状況 (全体)



(6) 日中独居 (F 6)

日中、ひとりであることが多いかたずねたところ、「ひとりであることが多い」が26.4%で4分の1、「ひとりであることは少ない」が70.5%となっている。(図表2-1-6)

図表2-1-6 日中独居 (全体)



(7) 助け合っている身内や友人 (F7)

① 食事や介護などを助け合っている身内や友人の有無

食事や介護などを助け合っている身内や友人の有無は、「いる」が 47.6%、「いない」が 49.8%となっている。(図表 2-1-7-①)

図表 2-1-7-① 助け合っている身内や友人の有無 (全体)

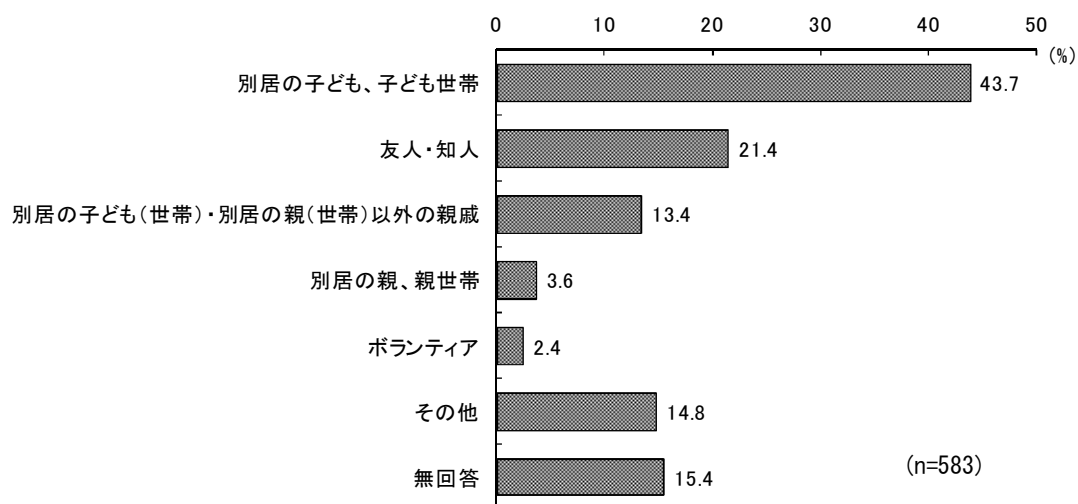


② 助け合っている人との関係 (F7-1)

助け合っている身内や友人がいる人に、助け合っている人との関係をたずねたところ、「別居の子ども、子ども世帯 (43.7%)」が最も多く、「友人・知人 (21.4%)」、「別居の子ども (世帯)・別居の親 (世帯) 以外の親戚 (13.4%)」が続いている。(図表 2-1-7-②)

図表 2-1-7-② 世帯状況 (全体：複数回答)

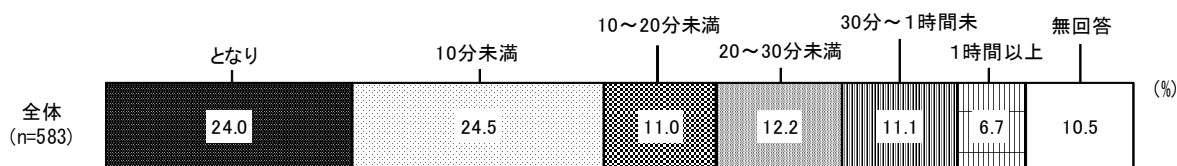
<助け合っている身内や友人がいる人>



③一番よく行き来する人との距離 (F7-2)

助け合っている身内や友人がいる人に、一番よく行き来する人との距離をたずねたところ、「10分未満 (24.5%)」と「となり (24.0%)」がともに約4分の1を占めており、「20～30分未満 (12.2%)」、「30分～1時間未満 (11.1%)」、「10～20分未満 (11.0%)」が続いている。(図表2-1-7-③)

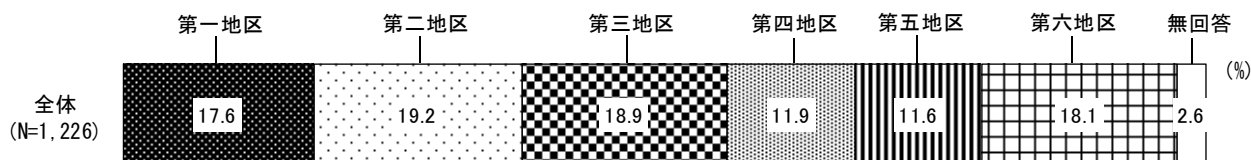
図表2-1-7-③ 一番よく行き来する人との距離 (全体) <助け合っている身内や友人がいる人>



(8) 居住地域 (F8)

居住地域は、「第一地区」が17.6%、「第二地区」が19.2%、「第三地区」が18.9%、「第四地区」が11.9%、「第五地区」が11.6%、「第六地区」が18.1%となっている。(図表2-1-8)

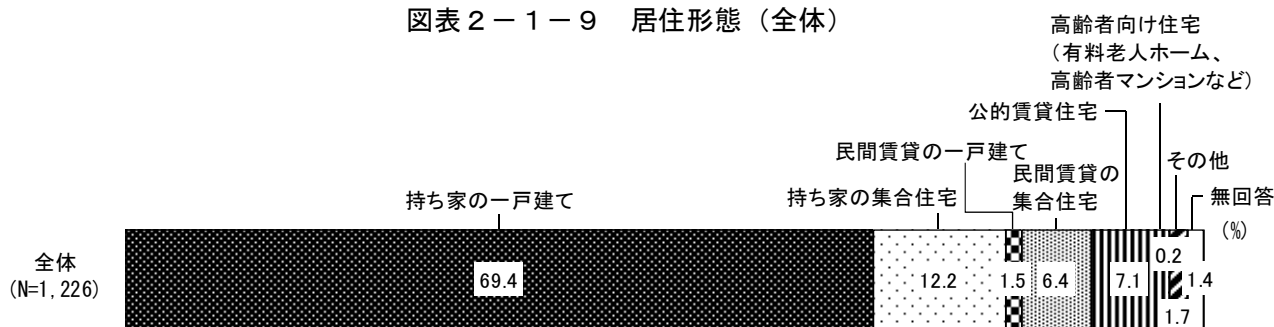
図表2-1-8 居住地域 (全体)



(9) 居住形態 (F9)

居住形態は、「持ち家の一戸建て (69.4%)」が最も多く、「持ち家の集合住宅 (12.2%)」、「公的賃貸住宅 (7.1%)」、「民間賃貸の集合住宅 (6.4%)」が続いている。(図表2-1-9)

図表2-1-9 居住形態 (全体)



(10) 要介護認定申請状況 (F10)

要介護認定申請状況は、「申請していない」が97.3%となっている。「申請し、認定を受けた」が0.3%、「申請したが結果が出ていない」が0.2%となっている。(図表2-1-10)

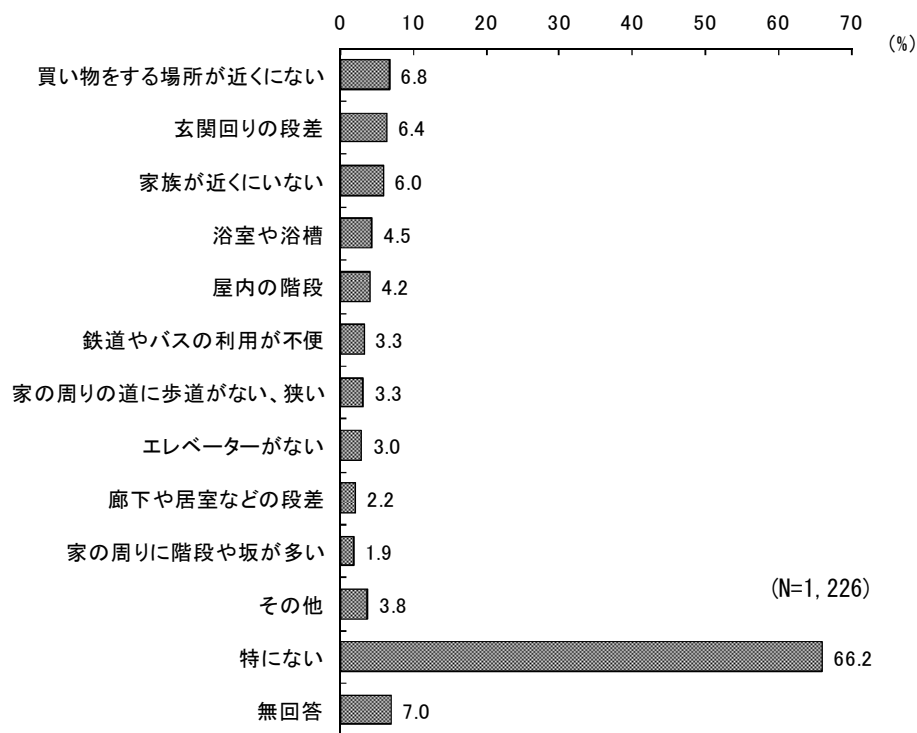
図表2-1-10 要介護認定申請状況 (全体)



(11) 住まいや住環境で困っていること (F11)

住まいや住環境で困っていることは、「特にない (66.2%)」が3分の2を占めている。困っていることでは、「買い物をする場所が近くにない (6.8%)」、「玄関回りの段差 (6.4%)」、「家族が近くにいない (6.0%)」がいずれも6%程度となっている。[前回:「特にない」57.0%、「買い物をする場所が近くにない」10.0%、以下は同傾向] (図表2-1-11)

図表2-1-11 住まいや住環境で困っていること (全体:複数回答)



2 医療の状況と介護予防について

(1) 健康状態 (問1)

健康状態は、「とても健康である (15.7%)」と「まあまあ健康である (65.8%)」を合計すると 81.5%が『健康である』としている。「あまり健康でない (12.9%)」と「健康でない (4.0%)」を合計すると 16.9%である。

性・年代別にみると、各年代で「まあまあ健康である」が多いが、「とても健康である」は、男女ともに年代が上がるに従い低くなっている。(図表2-2-1)

図表2-2-1 健康状態 (全体・性年代別)

		(%)				
		とても健康である	まあまあ健康である	あまり健康でない	健康でない	無回答
全	体 (N= 1,226)	15.7	65.8	12.9	4.0	1.5
性・年代別	男性 -65 ~ 74 歳 (n= 309)	19.7	63.4	12.6	2.6	1.6
	男性 -75 ~ 84 歳 (n= 188)	11.7	67.6	13.3	6.9	0.5
	男性 -85 歳以上 (n= 32)	9.4	71.9	9.4	3.1	6.3
	女性 -65 ~ 74 歳 (n= 408)	18.9	67.4	10.5	2.7	0.5
	女性 -75 ~ 84 歳 (n= 244)	11.1	63.9	17.2	5.3	2.5
	女性 -85 歳以上 (n= 32)	6.3	65.6	15.6	9.4	3.1

(2) 治療中の病気の有無 (問2)

現在治療中の病気の有無は、「ある」が 71.8%、「ない」が 24.7%である。(図表2-2-2)

図表2-2-2 治療中の病気の有無 (全体)



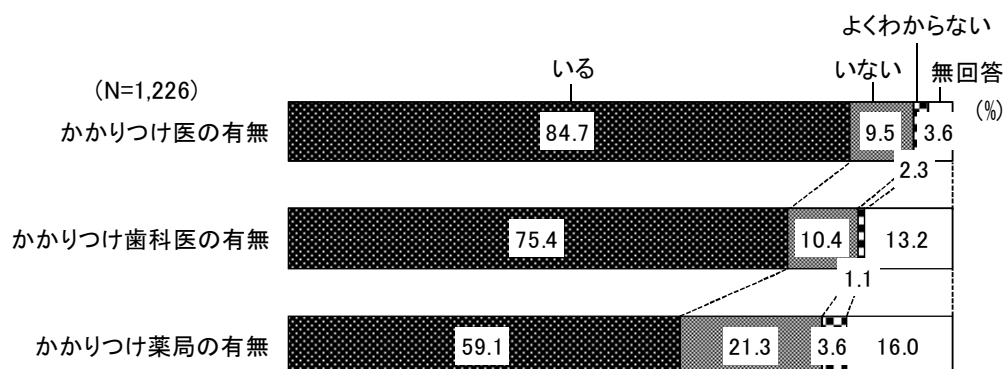
(3) かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（問3）

かかりつけ医の有無は、「いる」が84.7%、「いない」が9.5%となっている。〔前回：「いる」87.7%〕

かかりつけ歯科医の有無は、「いる」が75.4%、「いない」が10.4%となっている。〔前回：「いる」76.3%〕

かかりつけ薬局の有無は、「いる」が59.1%、「いない」が21.3%となっている。〔前回：「いる」63.1%〕（図表2-2-3）

図表2-2-3 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（全体）

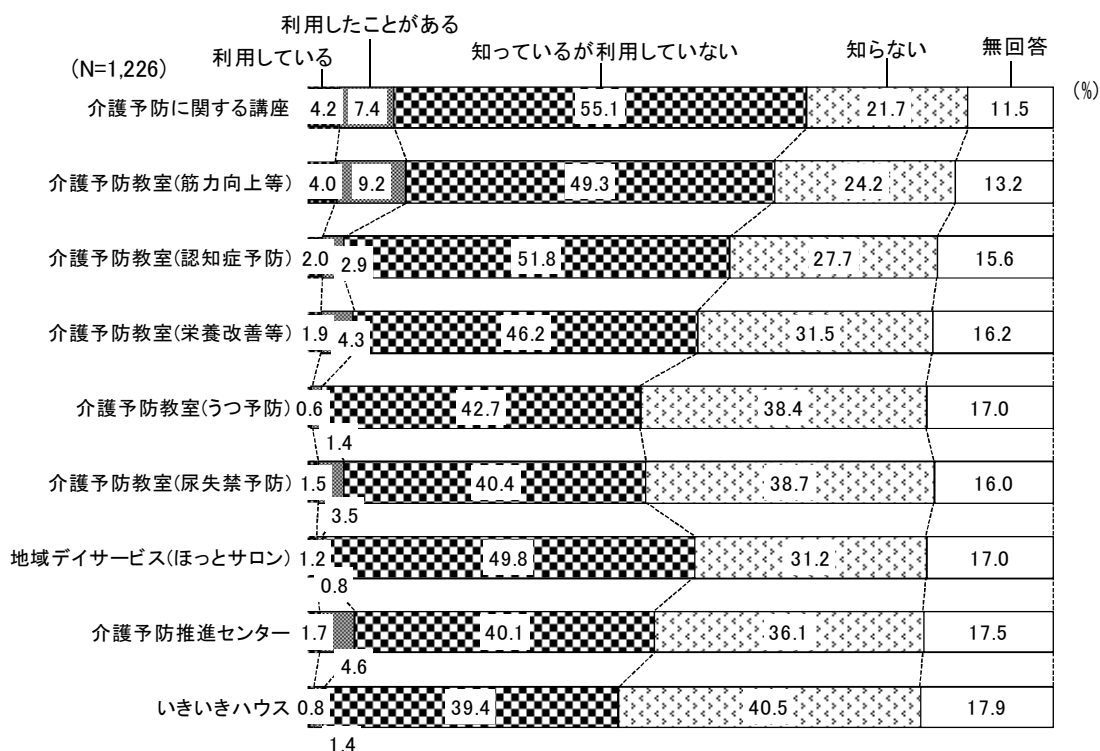


(4) 介護予防事業について (問4)

① 介護予防事業の利用状況

介護予防事業の利用状況は、《利用経験がある(「利用している」+「利用したことがある」)》の割合は、『介護予防教室(筋力向上等)(13.2%)』が最も高く、『介護予防に関する講座(11.6%)』が続いている。「知らない」の割合は、『いきいきハウス(40.5%)』、『介護予防教室(尿失禁予防)(38.7%)』、『介護予防教室(うつ予防)(38.4%)』で高くなっており、認知度が低い。(図表2-2-4-①)

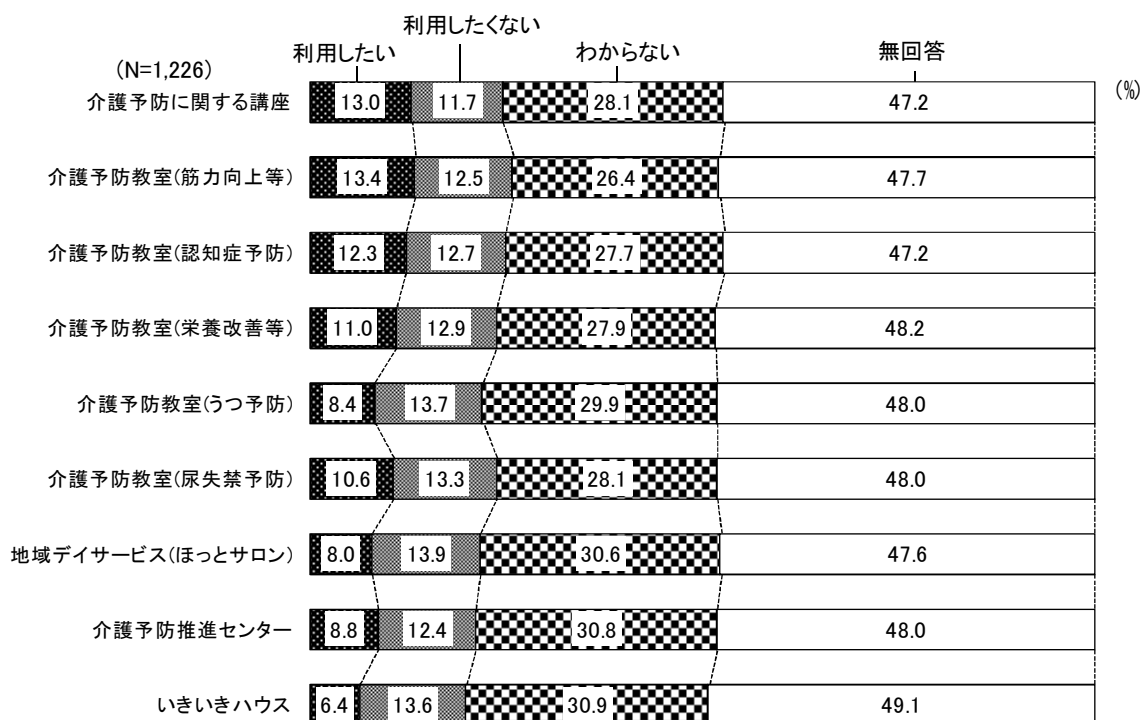
図表2-2-4-① 介護予防事業の利用状況(全体)



②介護予防事業の利用意向

介護予防事業の利用意向は、「利用したい」の割合は、『介護予防教室（筋力向上等）（13.4%）』で最も高く、『介護予防に関する講座（13.0%）』、『介護予防教室（認知症予防）（12.3%）』が続いている。（図表2-2-4-②）

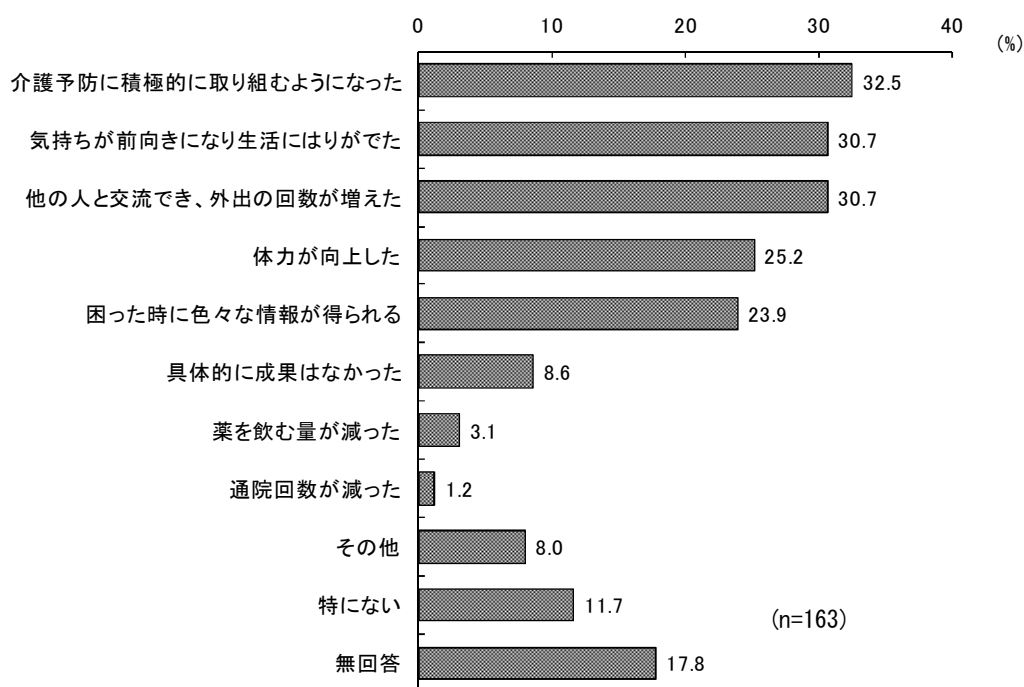
図表2-2-4-② 介護予防事業の利用意向（全体）



(5) 介護予防事業の成果（問4-1）

介護予防事業の利用経験のある人に、利用後の具体的な成果をたずねたところ、「介護予防に積極的に取り組むようになった（32.5%）」が最も多く、「気持ちが前向きになり生活にはりがでた（30.7%）」、「他の人と交流でき、外出の回数が増えた（30.7%）」が続いている。〔前回：「気持ちが前向きになり生活にはりがでた」20.8%、以下は15%以下〕（図表2-2-5）

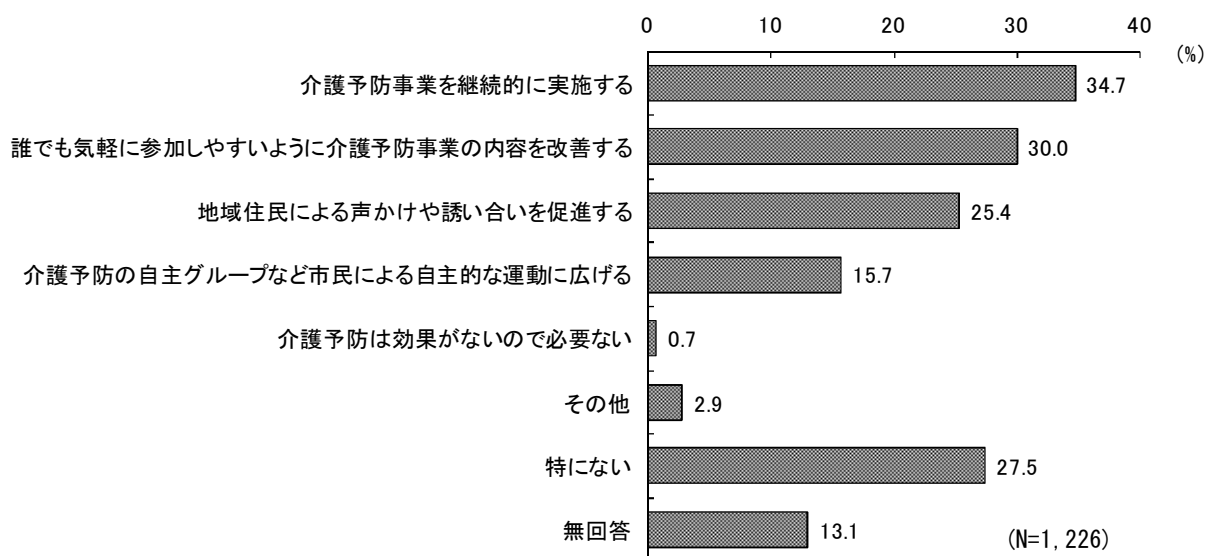
図表2-2-5 介護予防事業の成果（全体：複数回答）
 <介護予防事業の利用経験がある人>



(6) 府中市の介護予防に望むこと (問5)

府中市の介護予防に望むことは、「介護予防事業を継続的に実施する (34.7%)」が最も多く、「誰でも気軽に参加しやすいように介護予防事業の内容を改善する (30.0%)」が続いている。「特にない」は27.5%である。(図表2-2-6)

図表2-2-6 府中市の介護予防に望むこと (全体：複数回答)



(7) 介護が必要にならないようにしていることの有無 (問6)

介護が必要にならないようにしていることの有無は、「していることがある (59.8%)」が6割を占めている。

性・年代別にみると、各年代ともに「していることがある」が最も多いが、女性 65～74歳で65.0%と3分の2を占めている。(図表2-2-7)

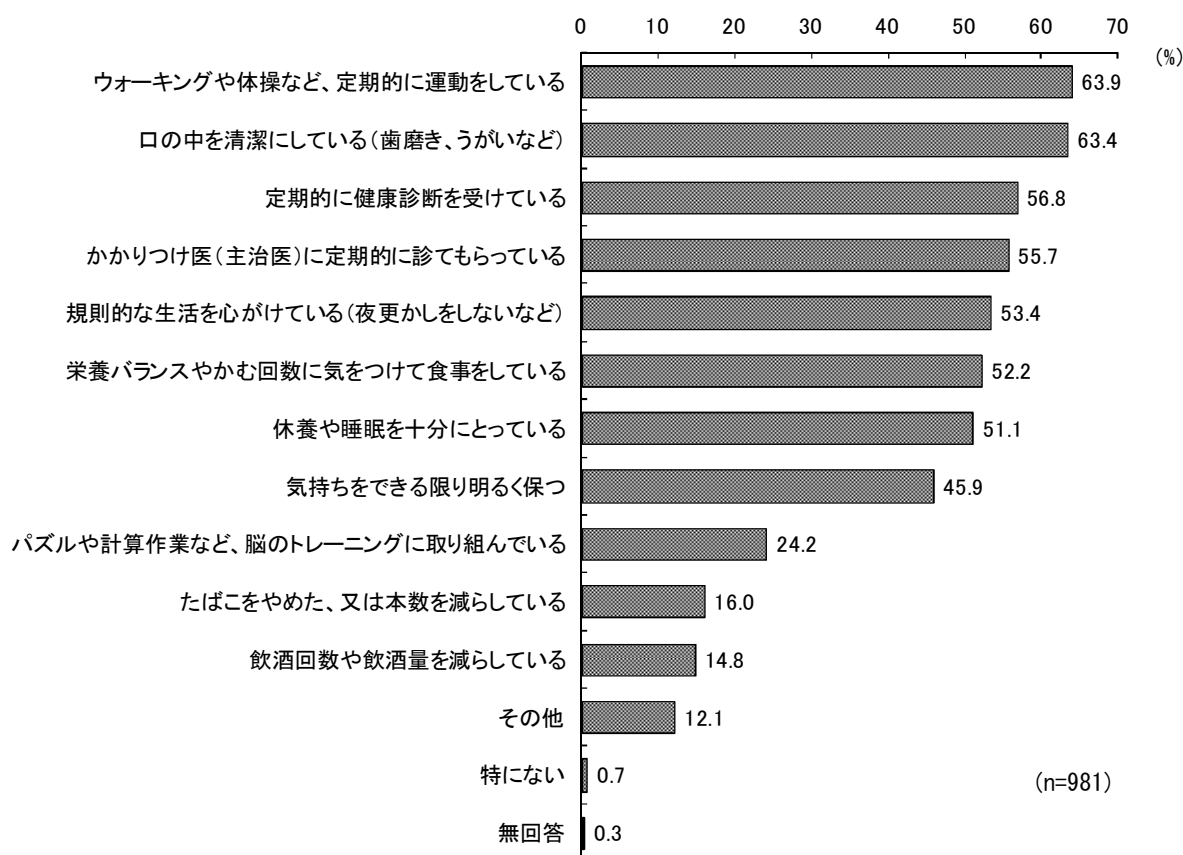
図表2-2-7 介護が必要にならないようにしていること (全体・性・年代別)

		(%)			
		していることがある	あして いない が興味は	て興味 もない し何も し	無 回 答
全	体 (N= 1,226)	59.8	20.2	9.1	10.8
性・ 年代 別	男性 -65 ~ 74 歳 (n= 309)	58.9	22.0	13.6	5.5
	男性 -75 ~ 84 歳 (n= 188)	55.9	20.7	9.6	13.8
	男性 -85 歳以上 (n= 32)	34.4	31.3	12.5	21.9
	女性 -65 ~ 74 歳 (n= 408)	65.0	20.3	7.6	7.1
	女性 -75 ~ 84 歳 (n= 244)	61.1	14.8	6.1	18.0
	女性 -85 歳以上 (n= 32)	56.3	21.9	3.1	18.8

(8) 健康づくりのためにしている・興味があること (問6-1)

介護が必要にならないようにしている人・興味がある人に、介護予防のために気をつけていることをたずねたところ、「ウォーキングや体操など、定期的に運動をしている (63.9%)」が最も多く、「口の中を清潔にしている (歯磨き、うがいなど) (63.4%)」、「定期的に健康診断を受けている (56.8%)」が続いている。(図表2-2-8)

図表2-2-8 健康づくりのために気をつけていること (全体：複数回答)
 <介護が必要にならないようにしている人・興味がある人>

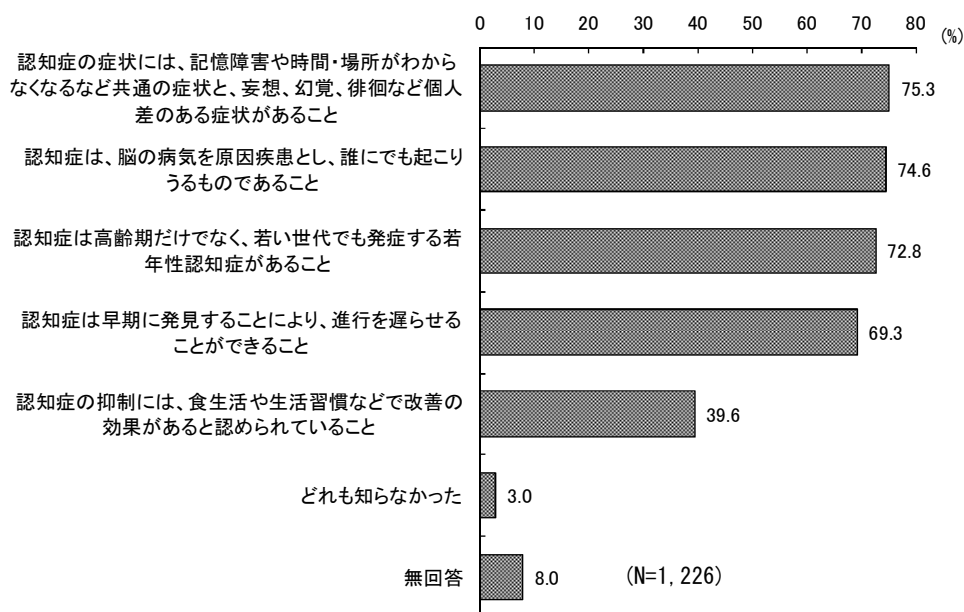


3 認知症について

(1) 認知症について知っていること (問7)

認知症について知っていることは、「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること (75.3%)」が最も多く、「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること (74.6%)」、「認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること (72.8%)」が続いている。(図表2-3-1)

図表2-3-1 認知症について知っていること (全体：複数回答)

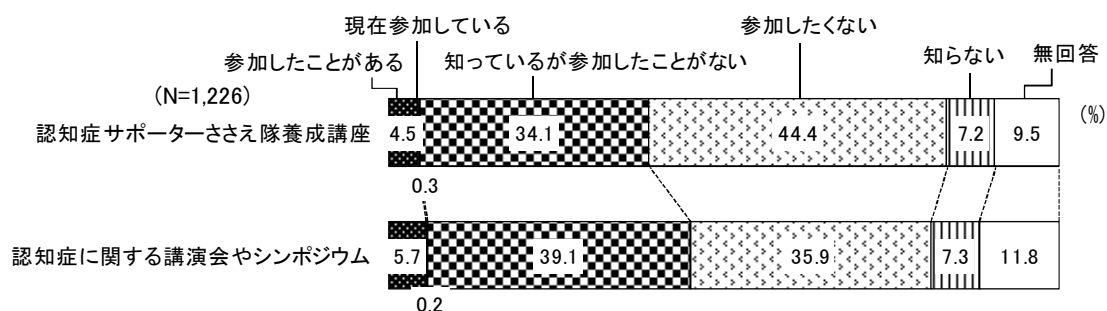


(2) 認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (問8)

認知症サポーターささえ隊養成講座については、「参加したことがある」が4.5%、「知っているが参加したことがない」が34.1%となっている。

認知症に関する講演会やシンポジウムについては、「参加したことがある」が5.7%、「知っているが参加したことがない」が39.1%となっている。(図表2-3-2)

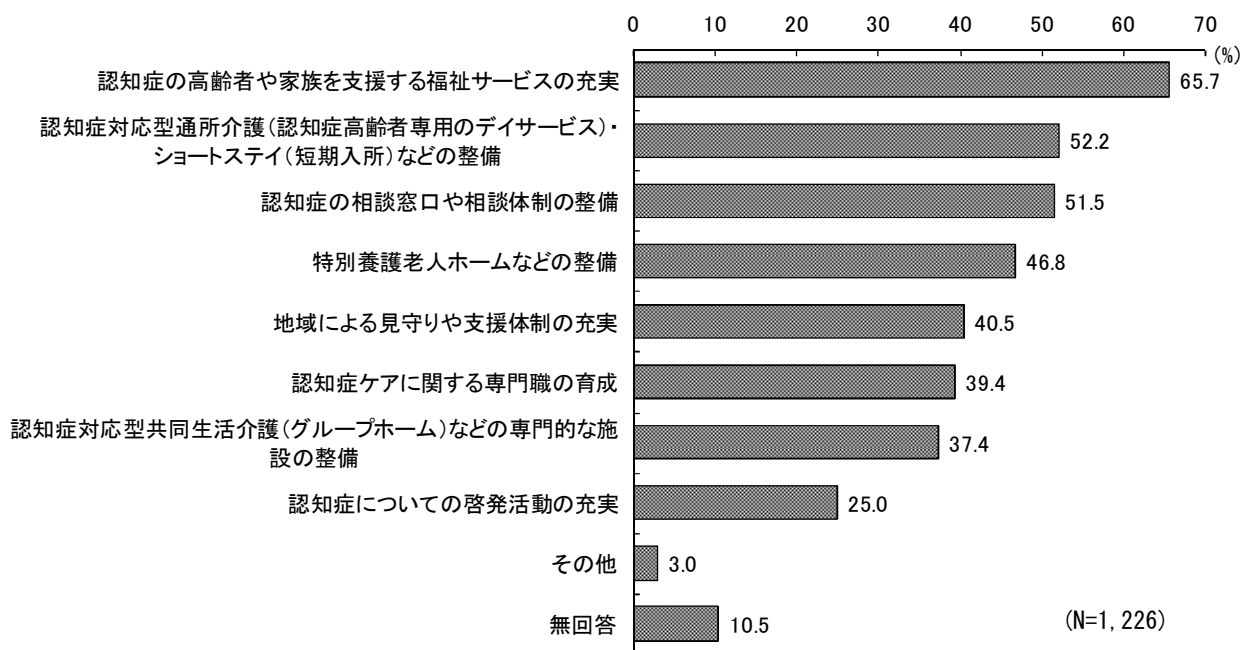
図表2-3-2 認知症予防啓発活動の参加・認知状況 (全体)



(3) 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (問9)

認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なことは、「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実 (65.7%)」が最も多く、「認知症対応型通所介護 (認知症高齢者専用のデイサービス)・ショートステイ (短期入所) などの整備 (52.2%)」、「認知症の相談窓口や相談体制の整備 (51.5%)」が続いている。(図表2-3-3)

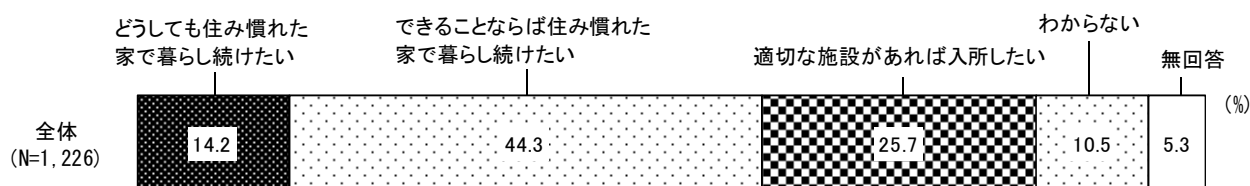
図表2-3-3 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (全体：複数回答)



(4) 認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (問10)

認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいかは、「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい (44.3%)」が最も多く、「適切な施設があれば入所したい (25.7%)」、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい (14.2%)」が続いている。(図表2-3-4)

図表2-3-4 認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (全体)



4 地域生活と日ごろの活動について

(1) 世帯状況 (F5)

世帯状況は、「子や孫など同居 (36.2%)」、「夫婦のみ (配偶者は65歳以上) (35.8%)」がともに3分の1以上を占め多く、「ひとり暮らし (自分のみ) (16.8%)」が続いている。

性・年代別にみると、男性75～84歳で「夫婦のみ (配偶者は65歳以上)」が過半数を占める。「ひとり暮らし (自分のみ)」は男性で年代が上がるに従い低率となり、女性では高率となる。

地区別にみると、第一地区と第六地区では「夫婦のみ (配偶者は65歳以上)」がともに4割を超え高い。第四地区では「子や孫など同居」が4割を超え高く、第五地区では「ひとり暮らし (自分のみ)」が2割を大きく超え他の地区に比べ高くなっている。(図表2-4-1)

図表2-4-1 世帯状況 (全体・性・年代別・地区別)

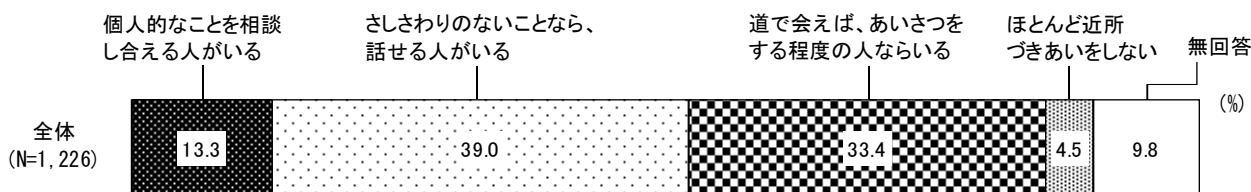
		(%)						
		のひとり暮らし (自分のみ)	65歳以上の夫婦のみ (配偶者は65歳以上)	65歳未満の夫婦のみ (配偶者は65歳未満)	子や孫など同居	65歳以上で全員の左記以外	その他	無回答
全	体 (N= 1,226)	16.8	35.8	3.8	36.2	1.7	4.4	1.3
性・年代別	男性 -65 ~ 74 歳 (n= 309)	13.6	33.3	10.7	35.9	1.9	4.5	0.0
	男性 -75 ~ 84 歳 (n= 188)	11.2	52.1	1.1	30.3	1.6	3.7	0.0
	男性 -85 歳以上 (n= 32)	6.3	37.5	3.1	43.8	0.0	6.3	3.1
	女性 -65 ~ 74 歳 (n= 408)	18.6	33.8	1.7	38.0	2.5	4.4	1.0
	女性 -75 ~ 84 歳 (n= 244)	23.0	33.6	1.2	36.9	0.4	4.1	0.8
	女性 -85 歳以上 (n= 32)	28.1	15.6	0.0	46.9	3.1	6.3	0.0
地区別	第一地区 (n= 216)	14.8	40.3	3.2	34.7	0.5	4.6	1.9
	第二地区 (n= 236)	14.0	32.2	2.5	40.7	2.5	7.2	0.8
	第三地区 (n= 232)	17.2	38.8	3.4	33.6	3.0	3.0	0.9
	第四地区 (n= 146)	19.2	22.6	4.8	44.5	1.4	5.5	2.1
	第五地区 (n= 142)	23.2	33.1	2.8	36.6	0.7	2.1	1.4
	第六地区 (n= 222)	16.2	42.8	6.3	29.3	1.8	2.7	0.9

(2) 近所づきあいについて

①近所づきあいの程度 (問 11)

近所づきあいの程度は、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる (39.0%)」が最も多く、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる (33.4%)」、「個人的なことを相談し合える人がいる (13.3%)」が続いている。(図表2-4-2-①)

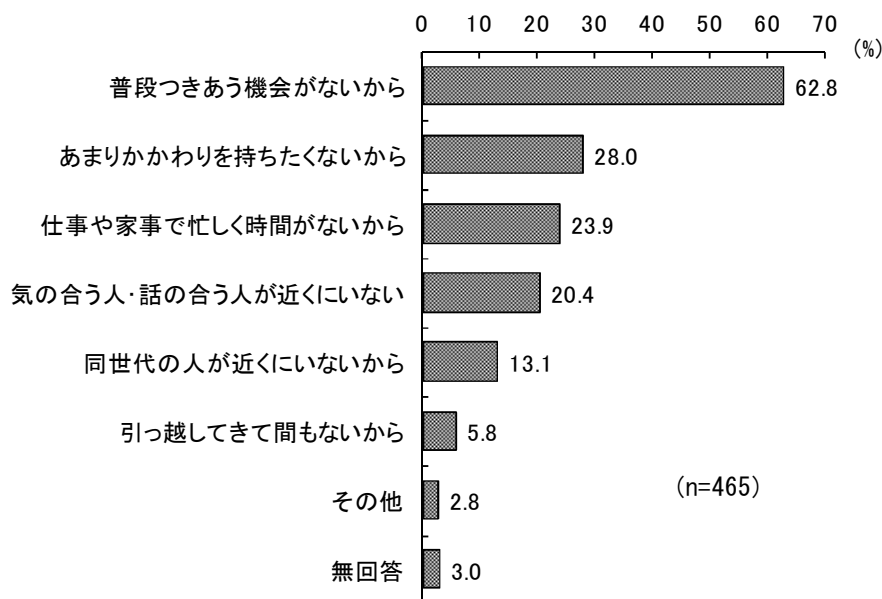
図表2-4-2-① 近所づきあいの程度 (全体)



②近所づきあいをしていない主な理由 (問 11-1)

近所づきあいの程度で「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」または「ほとんど近所づきあいをしない」と回答した人に、近所づきあいをしていない理由をたずねた。「普段つきあう機会がないから (62.8%)」が最も多く、「あまりかかわりを持ちたくないから (28.0%)」、「仕事や家事で忙しく時間がないから (23.9%)」が続いている。(図表2-4-2-②)

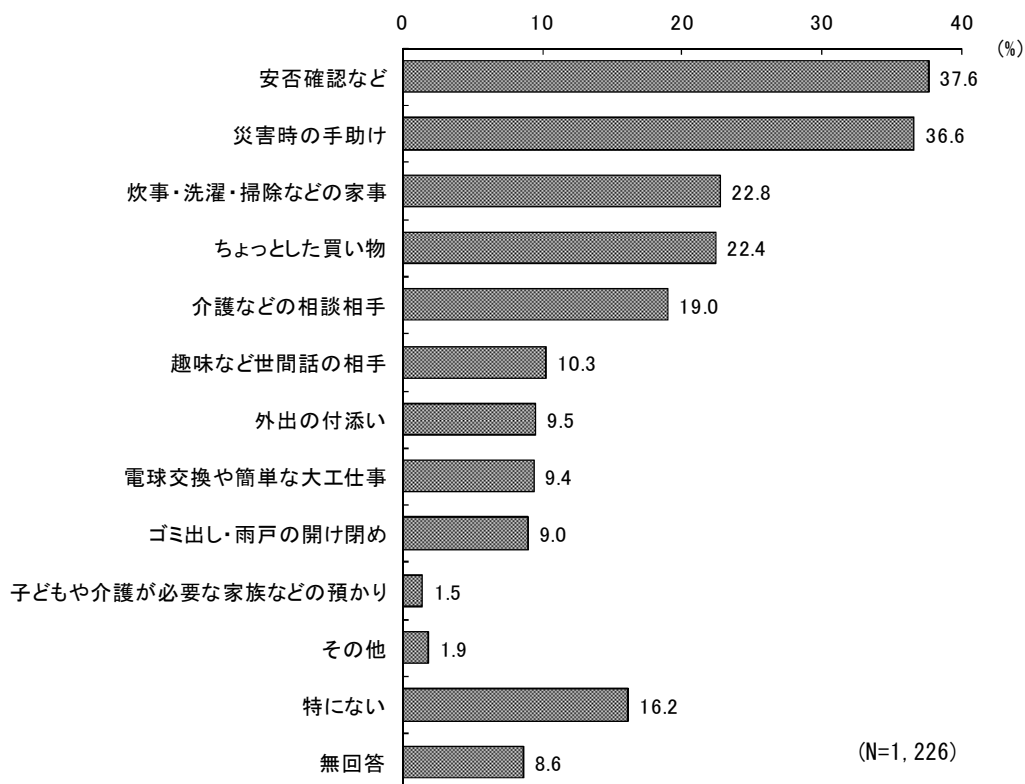
図表2-4-2-② 近所づきあいをしていない主な理由 (全体：複数回答)
 <あまり近所づきあいをしていないと回答した人>



(3) 地域の人たちにしてほしい手助け（問12）

日常生活が不自由になったときに地域の人たちにしてほしい手助けは、「安否確認など（37.6%）」が最も多く、「災害時の手助け（36.6%）」、「炊事・洗濯・掃除などの家事（22.8%）」が続いている。（図表2-4-3）

図表2-4-3 地域の人たちにしてほしい手助け（全体：複数回答（3つまで））



(4) 地域の支え合いとしてできること (問13)

地域の支え合いとしてできることは、「安否確認など (55.1%)」が最も多く、「ちょっとした買い物 (39.6%)」、「災害時の手助け (31.7%)」が続いている。

地域活動等参加程度別にみると、「安否確認など」、「災害時の手助け」、「趣味など世間話の相手」、「介護などの相談相手」は、地域活動の参加程度が低くなるに従い低率になっており、逆に参加程度が低くなるに従い「特にない」が高率になる傾向がみられる。

収入のある仕事の有無別にみると、仕事をしたいが仕事がないので働いていない人では、10項目中5項目で、他に比べ高くなっている。(図表2-4-4)

図表2-4-4 地域の支え合いとしてできること

(全体、地域活動参加程度別、収入のある仕事の有無別：複数回答 (3つまで))

		安否確認など	ちょっとした買い物	災害時の手助け	趣味など世間話の相手	ゴミ出し・雨戸の開け閉め	外出の付添い	炊事・洗濯・掃除などの家事	介護などの相談相手	電球交換や簡単な大工仕事	子どもや介護が必要な家族等の預かり	その他	特にない	無回答
全 体 (N= 1,226)		55.1	39.6	31.7	21.3	18.2	12.9	9.2	9.1	9.0	2.0	1.3	11.7	7.1
地域活動参加程度別	よく参加している (n= 113)	72.6	40.7	46.0	36.3	15.0	15.0	8.8	21.2	14.2	2.7	1.8	2.7	3.5
	時々参加している (n= 212)	65.6	47.6	39.2	25.9	24.5	12.7	9.0	11.8	7.1	3.3	1.9	5.2	4.7
	あまり参加していない (n= 326)	64.4	43.9	37.1	22.1	18.4	16.3	10.4	7.4	8.3	0.6	1.2	7.7	3.1
	まったく参加していない (n= 500)	45.6	36.8	24.8	17.0	17.2	11.0	9.0	7.2	9.4	1.8	0.8	19.8	5.0
収入のある仕事の有無別	仕事についている (n= 326)	55.8	37.7	36.8	20.9	16.0	13.2	9.2	8.6	14.4	1.2	1.8	10.1	5.8
	仕事をしたいが身体の具合が悪いので (n= 68)	44.1	39.7	22.1	17.6	29.4	10.3	10.3	4.4	17.6	1.5	1.5	11.8	7.4
	仕事をしたいが仕事がないので働いていない (n= 145)	48.3	47.6	35.9	27.6	27.6	16.6	16.6	6.9	13.8	1.4	1.4	8.3	2.8
	仕事をする意思がないので働いていない (n= 430)	64.0	42.6	33.0	21.4	17.2	13.3	7.2	10.9	5.6	1.9	0.9	11.2	2.6
	その他の (n= 127)	55.9	39.4	29.1	23.6	12.6	12.6	7.9	8.7	3.9	4.7	1.6	17.3	7.9

(5) 地域活動や社会活動への参加

①地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況（問14）

地域活動やボランティア活動、住まいの地域行事等への参加状況は、「よく参加している」が9.2%、「時々参加している」が17.3%であり、合計すると26.5%となっている。〔前回：「よく参加している」13.0%、「時々参加している」19.6%、参加率32.6%〕

性・年代別にみると、男性75～84歳で「よく参加している（13.8%）」が1割を超える。また男性65～74歳で「まったく参加していない（47.6%）」が半数近くを占めている。（図表2-4-5-①）

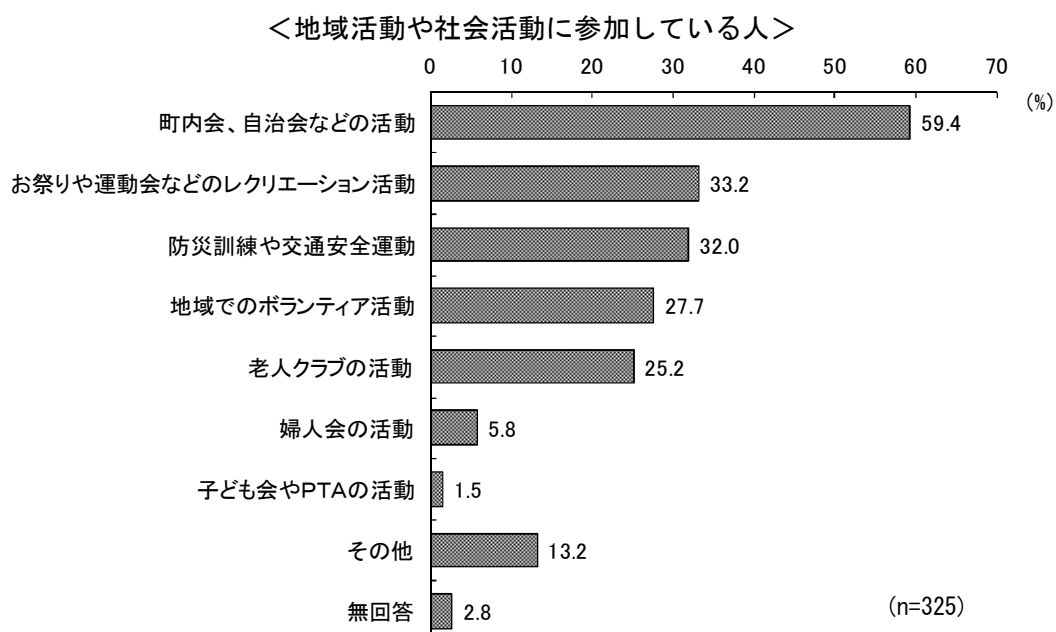
図表2-4-5-① 地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況（全体、性・年代別）

		（%）				
		いよく 参加して	い時々 参加して	てあまり ない参加し	しまつた いたなく い参加	無 回答
全	体(N= 1,226)	9.2	17.3	26.6	40.8	6.1
性・ 年代別	男性-65～74歳(n= 309)	7.1	14.9	25.9	47.6	4.5
	男性-75～84歳(n= 188)	13.8	17.6	27.1	37.2	4.3
	男性-85歳以上(n= 32)	6.3	6.3	18.8	46.9	21.9
	女性-65～74歳(n= 408)	9.1	18.4	28.4	40.9	3.2
	女性-75～84歳(n= 244)	9.4	20.5	26.6	33.6	9.8
	女性-85歳以上(n= 32)	9.4	12.5	18.8	43.8	15.6

②参加している（していた）活動（問14-1）

地域活動やボランティア活動、住まいの地域行事等に参加している人に活動内容をたずねたところ、「町内会、自治会などの活動（59.4%）」が最も多く、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動（33.2%）」、「防災訓練や交通安全運動（32.0%）」が続いている。（図表2-4-5-②）

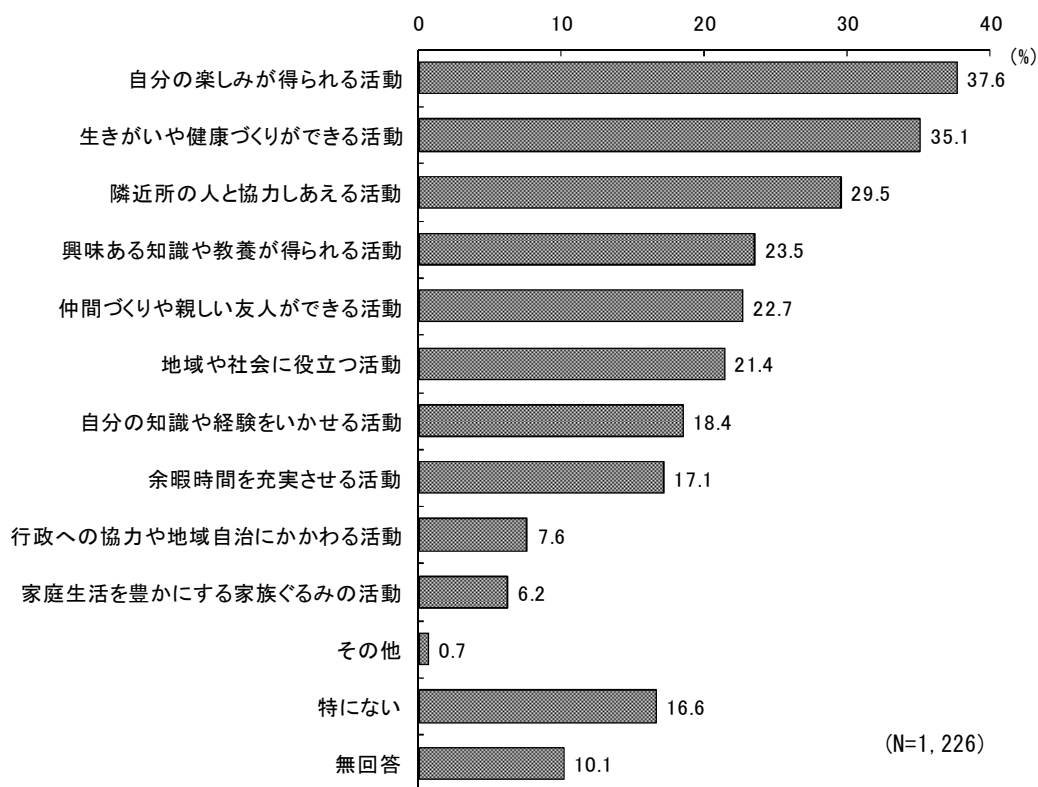
図表2-4-5-② 参加している（していた）活動（全体：複数回答）



③これから参加したい活動（問15）

これから参加したい活動内容は、「自分の楽しみが得られる活動（37.6%）」が最も多く、「生きがいや健康づくりができる活動（35.1%）」、「隣近所の人と協力しあえる活動（29.5%）」が続いている。（図表2-4-5-③）

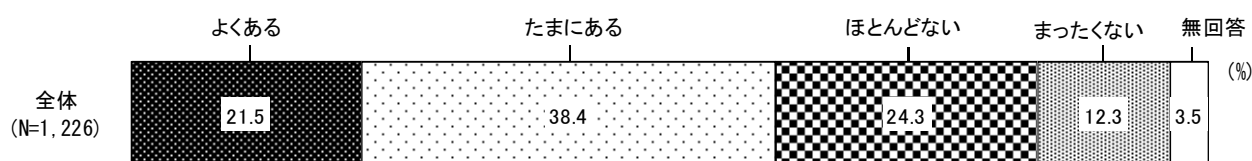
図表2-4-5-③ これから参加したい活動内容（全体：複数回答）



(6) 家族以外の若い世代との交流の有無 (問 16)

家族以外の若い世代との交流の有無は、「よくある (21.5%)」と「たまにある (38.4%)」を合計すると 59.9%となっている。また、「ほとんどない (24.3%)」と「まったくない (12.3%)」を合計すると 36.6%となっている。(図表 2-4-6)

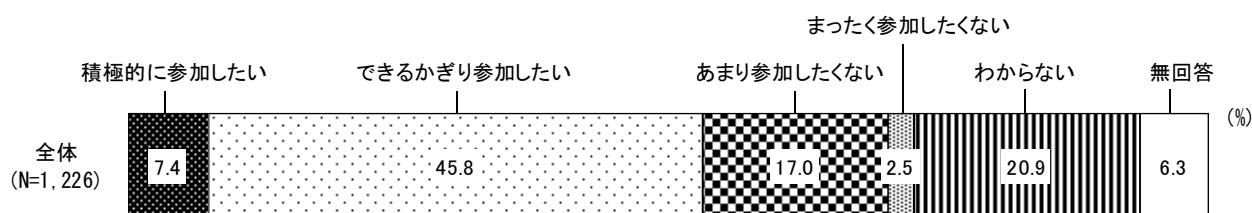
図表 2-4-6 家族以外の若い世代との交流の有無 (全体)



(7) 若い世代との交流希望 (問 17)

若い世代との交流があった場合の参加意向は、「積極的に参加したい」が 7.4%、「できるかぎり参加したい」が 45.8%、「あまり参加したくない」が 17.0%、「まったく参加したくない」が 2.5%となっている。(図表 2-4-7)

図表 2-4-7 若い世代との交流があった場合の参加意向 (全体)



(8) 就労について

①現在の就労状況 (問 18)

就労状況は、「仕事についている(26.6%)」が4分の1、「仕事をする意思がない(35.1%)」が3分の1強となっている。[前回:「仕事についている」21.5%、「仕事をする意思がない」25.8%]

性・年代別にみると、男性の65～74歳では「仕事についている(46.6%)」が半数近くを占めている。一方、男性の75～84歳では「仕事をする意思がないので、働いていない(40.4%)」が約4割を占める。女性でも75～84歳では「仕事をする意思がないので、働いていない(40.6%)」が約4割を占めている。

地区別にみると、第二地区と第四地区では「仕事についている」がともに3分の1を占めている。第五地区では「仕事についている(18.3%)」は2割に満たず、「仕事をする意思がないので、働いていない(40.1%)」が4割を超え高くなっている。(図表2-4-8-①)

図表2-4-8-① 就労状況 (全体、性・年代別、地区別)

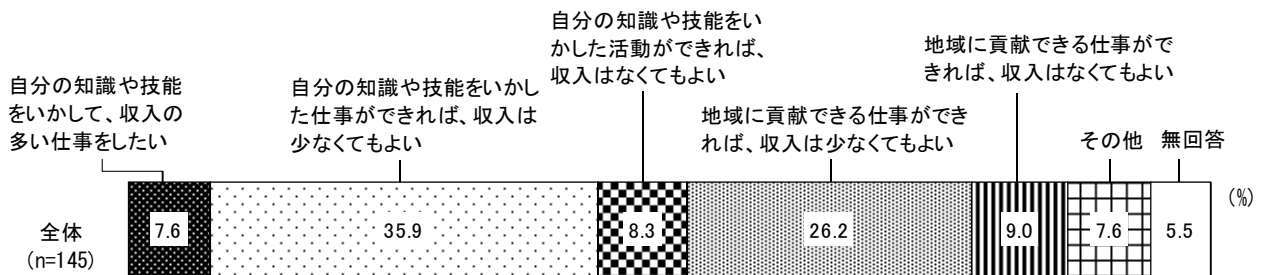
		(%)					
		仕事についている	仕事が悪いので働いていない	仕事をしたいたいが、仕事がない	仕事をする意思がない	その他	無回答
全	体 (N= 1,226)	26.6	5.5	11.8	35.1	10.4	10.6
性・年代別	男性 -65 ～ 74 歳 (n= 309)	46.6	6.5	11.3	27.2	5.5	2.9
	男性 -75 ～ 84 歳 (n= 188)	19.1	6.9	17.0	40.4	10.1	6.4
	男性 -85 歳以上 (n= 32)	18.8	3.1	9.4	31.3	9.4	28.1
	女性 -65 ～ 74 歳 (n= 408)	28.7	5.9	12.0	36.5	9.3	7.6
	女性 -75 ～ 84 歳 (n= 244)	8.6	2.9	9.0	40.6	16.8	22.1
	女性 -85 歳以上 (n= 32)	0.0	3.1	3.1	31.3	28.1	34.4
地区別	第一地区 (n= 216)	22.7	6.9	11.6	36.1	14.4	8.3
	第二地区 (n= 236)	34.7	5.5	10.6	31.8	8.1	9.3
	第三地区 (n= 232)	22.0	5.2	11.6	37.5	10.3	13.4
	第四地区 (n= 146)	33.6	4.8	8.2	37.0	9.6	6.8
	第五地区 (n= 142)	18.3	4.2	13.4	40.1	12.7	11.3
	第六地区 (n= 222)	27.5	5.4	14.0	33.8	7.2	12.2

②希望就労形態（問 18-1）

仕事をしたいが、仕事がないので働いていない人に、希望する就労形態をたずねたところ、「自分の知識や技能をいかした仕事ができれば、収入は少なくてもよい（35.9%）」が最も多く、「地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくてもよい（26.2%）」、「地域に貢献できる仕事ができれば、収入はなくてもよい（9.0%）」が続いている。（図表2-4-8-②）

図表2-4-8-② 就労状況（全体）

<仕事をしたいが、仕事がないので働いていないと回答した人>

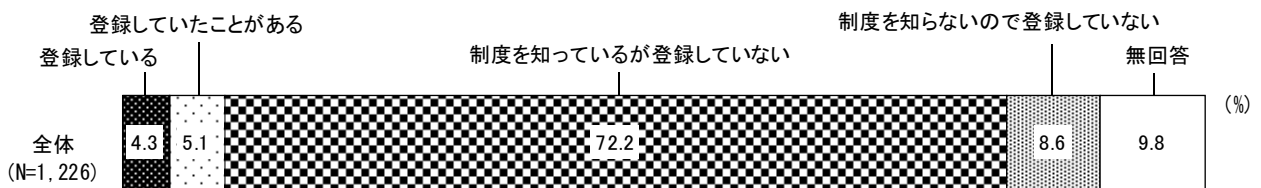


(9)「シルバー人材センター」への登録について

①「シルバー人材センター」への登録の有無（問 19）

シルバー人材センターへの登録の有無は、「制度を知っているが登録していない（72.2%）」が7割を超え最も多く、「制度を知らないので登録していない（8.6%）」、「登録していたことがある（5.1%）」が続いている。（図表2-4-9-①）

図表2-4-9-① 「シルバー人材センター」への登録の有無（全体）



②「シルバー人材センター」への今後の登録の意向（問 19-1）

「シルバー人材センター」に登録していない人に今後の登録の意向をたずねたところ、「登録したい」が8.4%、「登録したいとは思わない」が43.0%、「わからない」が24.4%となっている。（図表2-4-9-②）

図表2-4-9-② 「シルバー人材センター」への今後の登録の意向（全体）

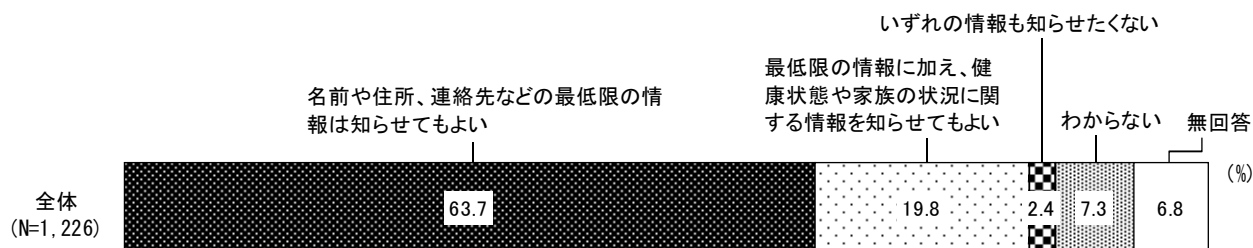


5 災害時の対応について

(1) 災害対策のために自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて (問 20)

災害時の避難状況を確認するために、府中市役所、消防署、警察署や町内会・自治会に、自分の個人情報を事前に知らせておくことについては、「名前や住所、連絡先などの最低限の情報は知らせてもよい (63.7%)」が最も多くなっている。次いで、「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい (19.8%)」となっている。(図表 2-5-1)

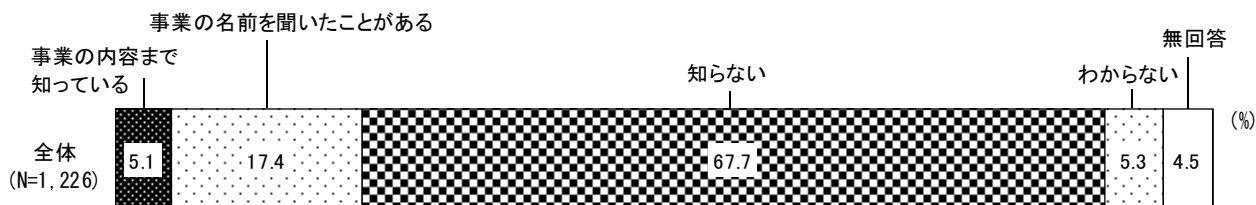
図表 2-5-1 災害対策のために自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて (全体)



(2) 「災害時要援護者事業」の認知度 (問 21)

「災害時要援護者事業」の認知度は、「知らない (67.7%)」が最も多く、「事業の名前を聞いたことがある (17.4%)」、「わからない (5.3%)」が続いている。「事業の内容まで知っている」は 5.1%となっている。[前回: 「知らない」60.5%、「事業の内容まで知っている」8.9%] (図表 2-5-2)

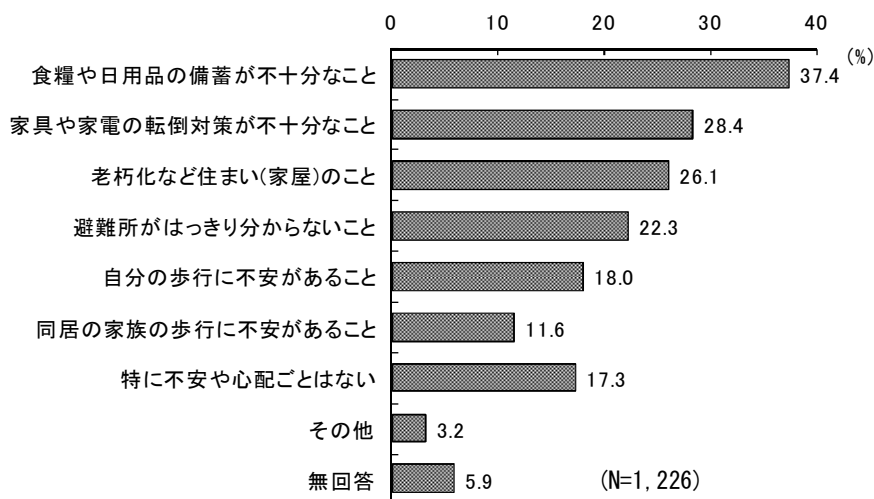
図表 2-5-2 「災害時要援護者事業」の認知度 (全体)



(3) 災害時の不安や心配ごと（問 22）

災害時の不安や心配ごとは、「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと（37.4%）」が最も多く、「家具や家電の転倒対策が不十分なこと（28.4%）」、「老朽化など住まい（家屋）のこと（26.1%）」が続いている。（図表 2-5-3）

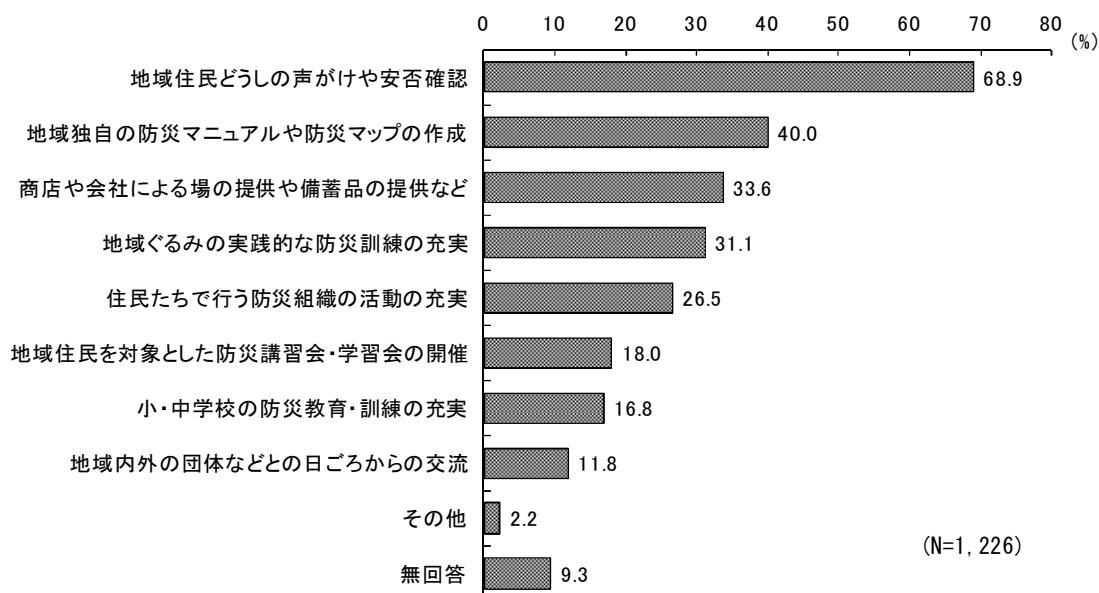
図表 2-5-3 災害時の不安や心配ごと（全体：複数回答）



(4) 災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うもの（問 23）

災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うものは、「地域住民どうしの声かけや安否確認（68.9%）」が最も多く、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成（40.0%）」、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など（33.6%）」が続いている。（図表 2-5-4）

図表 2-5-4 災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うもの（全体：複数回答）



(5) 災害時に手助けが必要な人にできること (問 24)

災害時に手助けが必要な人にできることは、「手助けの必要な方への声掛け (56.9%)」が最も多く、「避難所での支援活動 (43.1%)」、「子どものいる家族への手助け (22.8%)」が続いている。「特にできることはない」は17.9%である。

地域活動等参加程度別にみると、「手助けの必要な方への声掛け」、「避難所での支援活動」、「けが人の手当て」は、地域活動の参加程度が低くなるに従い低率になっており、逆に参加程度が低くなるに従い「特にできることはない」が高率になる傾向がみられる。

収入のある仕事の有無別にみると、仕事についている人と仕事をしたいが仕事がないので働いていない人では、「手助けの必要な方への声掛け」、「避難所での支援活動」、「子どものいる家族への手助け」の上位3項目で、高率となっている。仕事をしたいが身体の具合が悪いという人では、「特にできることはない」が26.5%と4分の1を占めている。(図表2-5-5)

図表2-5-5 災害時に手助けが必要な人にできること
(全体、地域活動等参加程度別、収入のある仕事の有無別：複数回答)

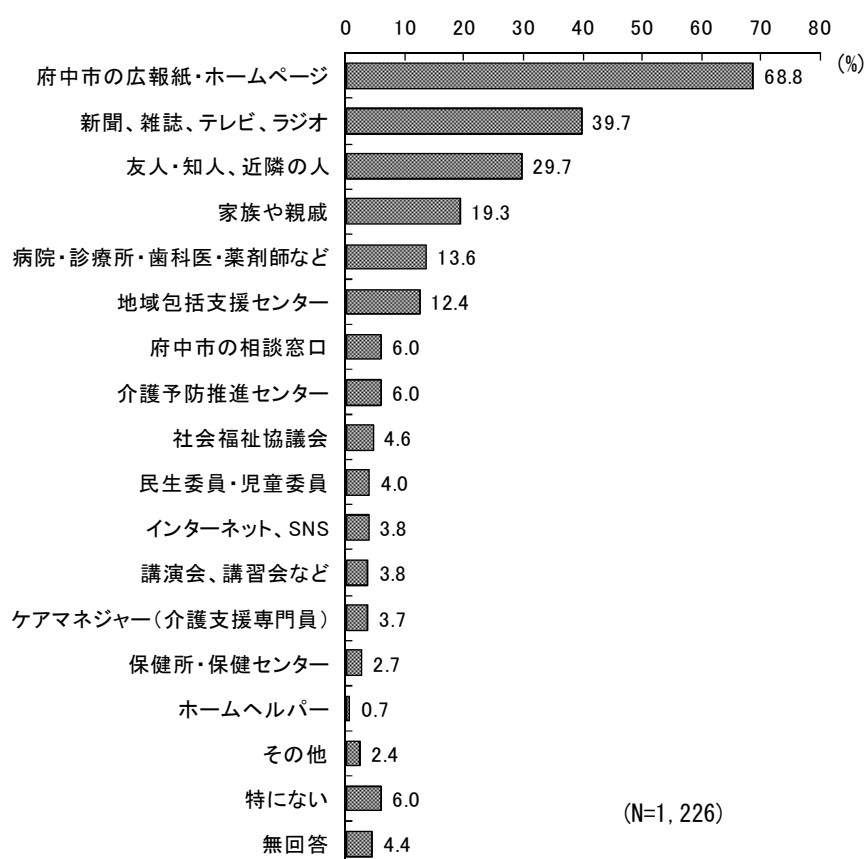
		(%)							
		手助けの必要な方への声掛け	避難所での支援活動	子どものいる家族への手助け	水や食糧の提供	けが人の手当て	特にできることはない	その他	無回答
全	体 (N= 1,226)	56.9	43.1	22.8	13.1	9.8	17.9	2.5	7.9
参加地域活動程度別等	よく参加している (n= 113)	77.9	61.1	32.7	14.2	16.8	9.7	3.5	2.7
	時々参加している (n= 212)	66.5	55.2	23.1	18.9	10.4	9.9	1.4	6.6
	あまり参加していない (n= 326)	63.8	46.9	28.2	12.3	10.1	13.8	1.8	4.0
	まったく参加していない (n= 500)	46.4	34.4	18.8	11.6	8.2	26.8	3.4	7.2
収入のある仕事の有無別	仕事についている (n= 326)	62.0	51.2	25.2	16.9	15.0	11.3	2.1	4.6
	仕事をしたいが身体の具合が悪い (n= 68)	55.9	39.7	13.2	16.2	10.3	26.5	2.9	4.4
	仕事をしたいが仕事がないので働いていない (n= 145)	64.8	55.9	31.7	13.1	9.7	10.3	2.1	2.8
	仕事をする意思がないので働いていない (n= 430)	59.1	42.8	23.3	11.9	6.7	22.6	1.9	4.0
	その他 (n= 127)	51.2	32.3	18.9	8.7	11.8	23.6	6.3	7.9

6 情報について

(1) 健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先（問 25）

健康や介護予防、福祉サービス、地域の活動などに関する情報の入手先は、「府中市の広報紙・ホームページ（68.8%）」が最も多く、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ（39.7%）」、「友人・知人、近隣の人（29.7%）」が続いている。（図表 2-6-1）

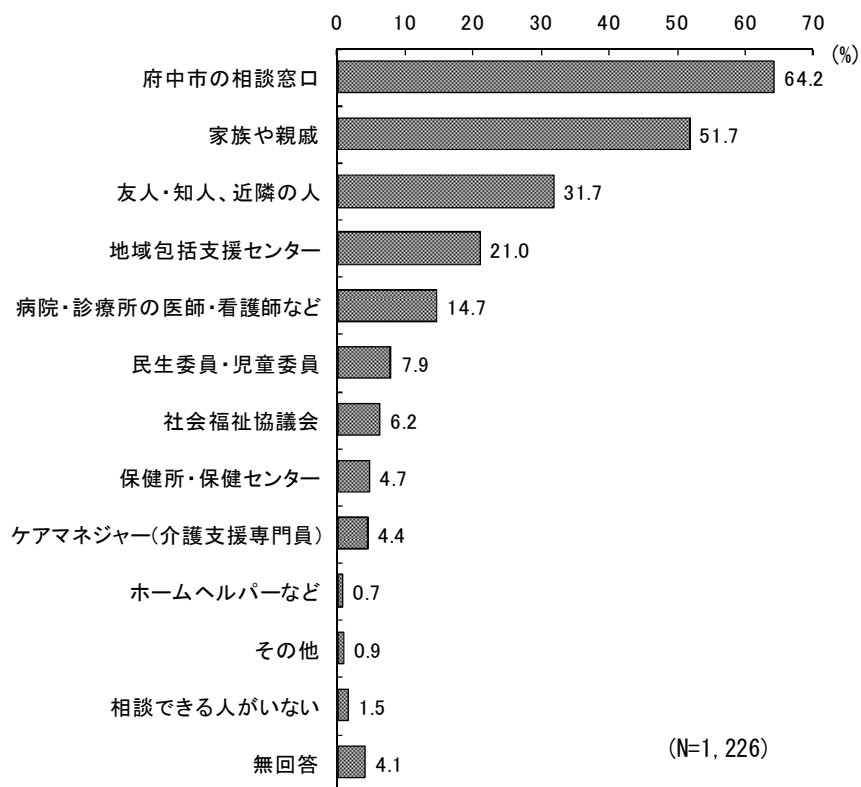
図表 2-6-1 健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先（全体：複数回答）



(2) 暮らしの問題や福祉に関する相談先（問26）

暮らしの問題や福祉に関する相談先は、「府中市の相談窓口（64.2%）」が最も多く、「家族や親戚（51.7%）」、「友人・知人、近隣の人（31.7%）」が続いている。（図表2-6-2）

図表2-6-2 暮らしの問題や福祉に関する相談先（全体：複数回答）



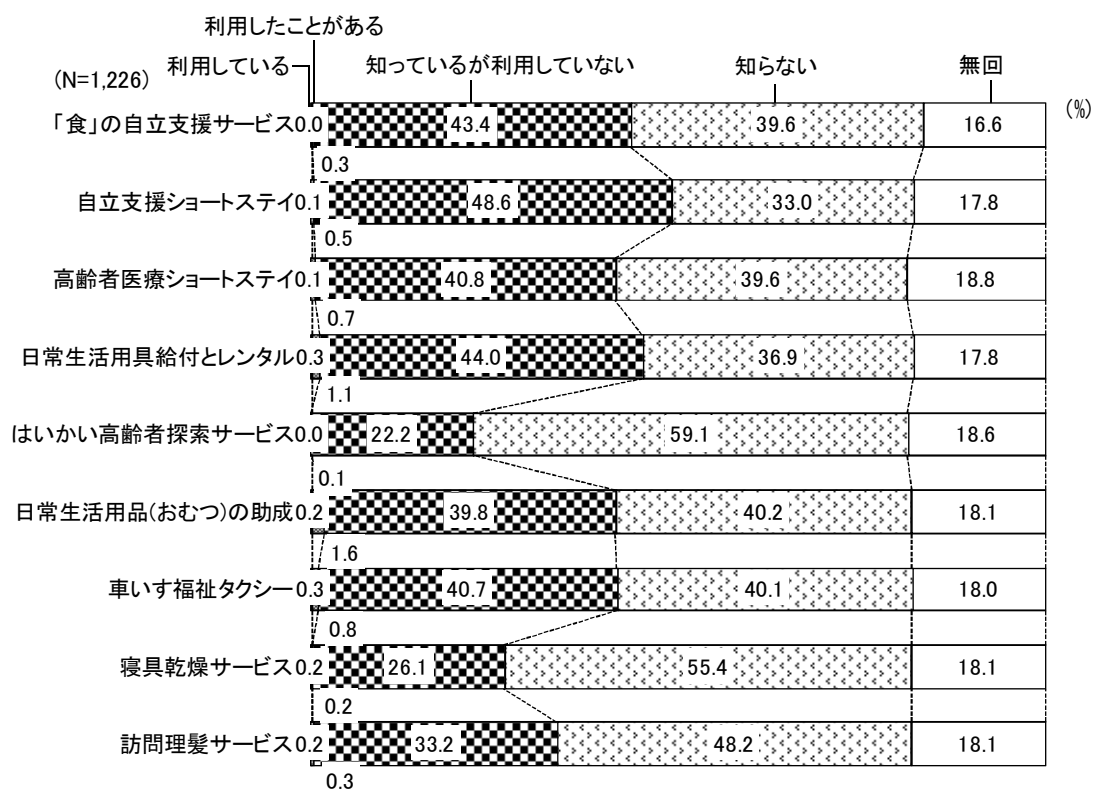
7 高齢者保健福祉サービスについて

(1) 高齢者保健福祉サービス（問 27）

①利用状況

高齢者保健福祉サービスの利用状況は、「利用している」と「利用したことがある」を合計しても、9項目中6項目において1.0%以下となっている。「知らない」の割合は、『はいかい高齢者探索サービス（59.1%）』と『寝具乾燥サービス（55.4%）』が半数を超え高くなっている。〔前回：「知らない」は『はいかい高齢者探索サービス』が59.1%、『自立支援ショートステイ』が53.5%〕（図表2-7-1-①）

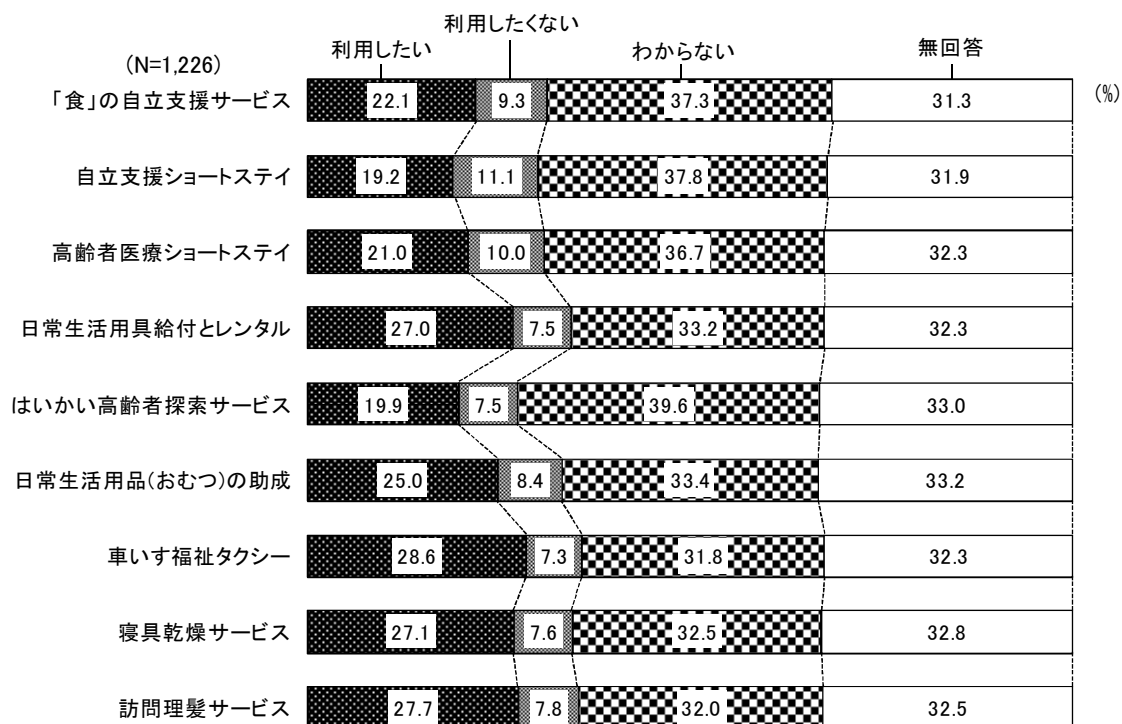
図表2-7-1-① 高齢者保健福祉サービスの利用状況（全体）



②利用意向

高齢者保健福祉サービスの利用意向は、「利用したい」の割合は、『車いす福祉タクシー (28.6%)』で最も高く、『訪問理髪サービス (27.7%)』、『寝具乾燥サービス (27.1%)』、『日常生活用具給付とレンタル (27.0%)』が続いている。〔前回：「利用したい」は、『車いす福祉タクシー』が 35.8%、『訪問理髪サービス』が 34.3%、『寝具乾燥サービス』が 32.8%、『日常生活用具給付とレンタル』が 30.8%〕 (図表 2-7-1-②)

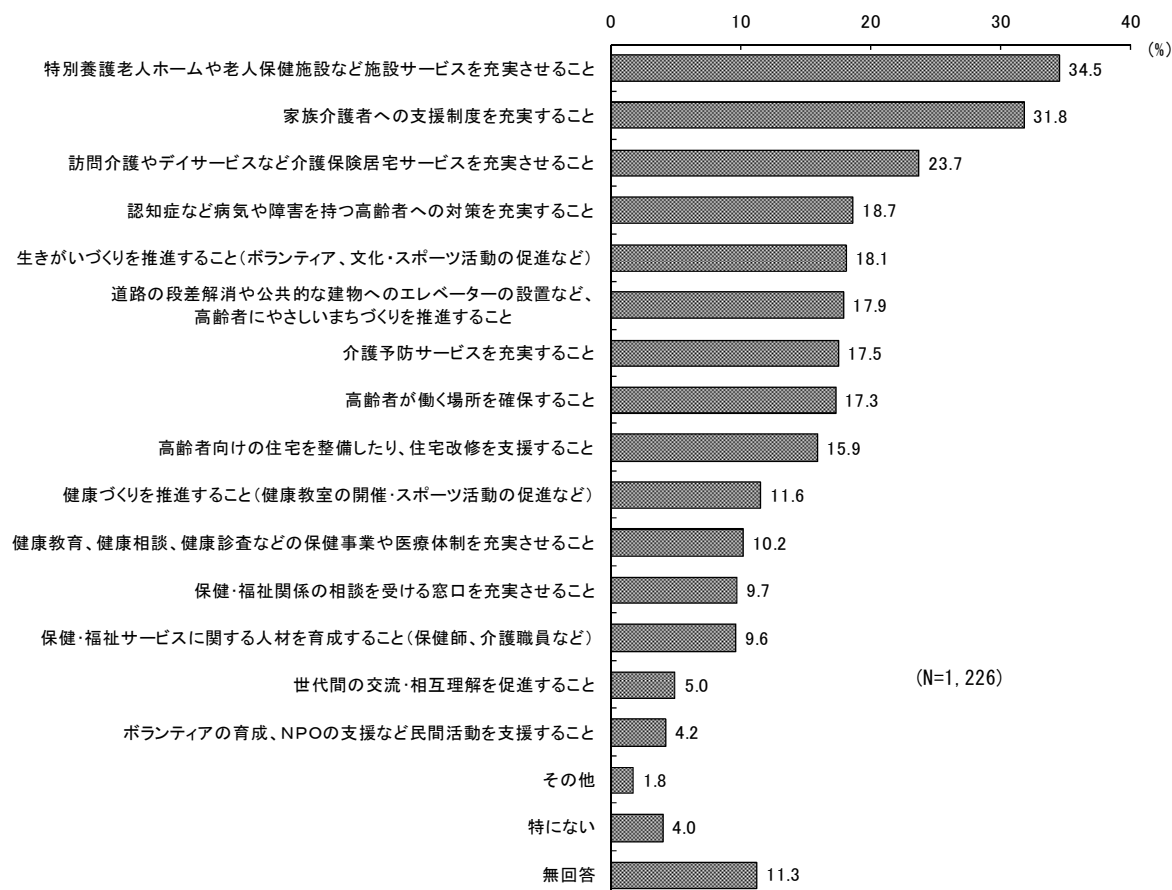
図表 2-7-1-② 高齢者保健福祉サービスの利用意向 (全体)



(2) 府中市が優先して取り組むべきサービス（問 28）

府中市が優先して取り組むべきサービスは、「特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスを充実させること（34.5%）」が最も多く、「家族介護者への支援体制を充実すること（31.8%）」、「訪問介護やデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させること（23.7%）」が続いている。（図表 2-7-2）

図表 2-7-2 府中市が優先して取り組むべきサービス（全体：複数回答（3つまで））



8 介護保険について

(1) 保険料段階（問 29）

保険料段階は、無回答が多かったが記入された内容としては「4段階（5.7%）」が最も多く、「6段階（3.6%）」、「7段階（3.2%）」が続いている。（図表 2-8-1）

図表 2-8-1 保険料段階（全体）

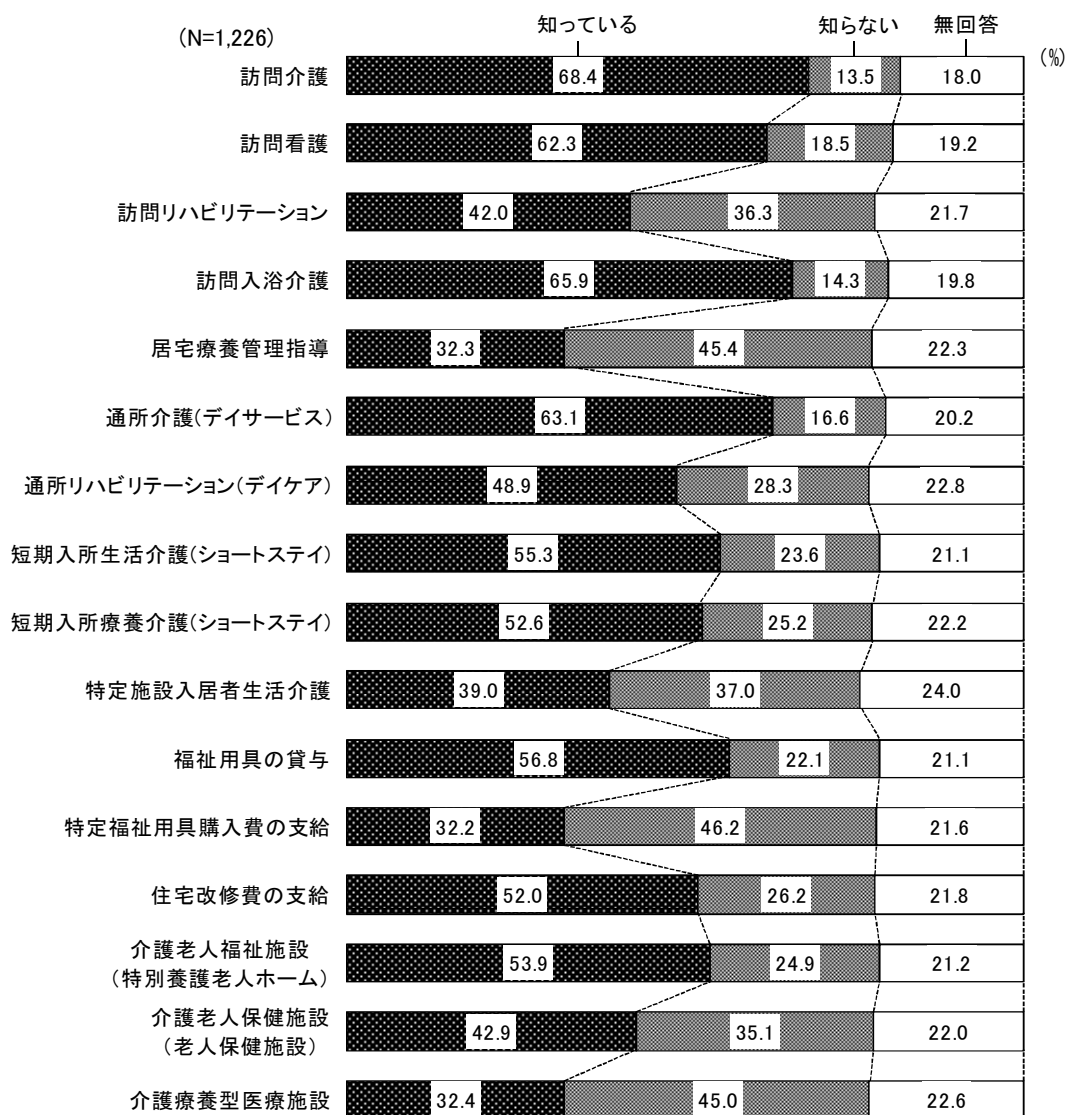
	0段階	1段階	2段階	3段階	4段階	5段階	6段階	7段階	8段階	9段階	10段階	11段階	わからない・無回答
全体 (N=1,226)	0.1	0.2	1.9	1.8	5.7	1.5	3.6	3.2	0.7	0.2	0.2	0.2	80.9

(2) 介護保険サービス (問 30)

①介護保険サービスの認知度

介護保険サービスについて「知っている」の割合は、『訪問介護 (68.4%)』が最も高く、『訪問入浴介護 (65.9%)』、『通所介護 (デイサービス) (63.1%)』、『訪問看護 (62.3%)』が続いている。[前回:『訪問介護 (生活援助主体)』が 74.0%、『訪問介護 (身体介護主体)』が 71.9%、『訪問入浴介護』が 71.1%、『通所介護 (デイサービス)』が 67.6%] (図表 2-8-2-①)

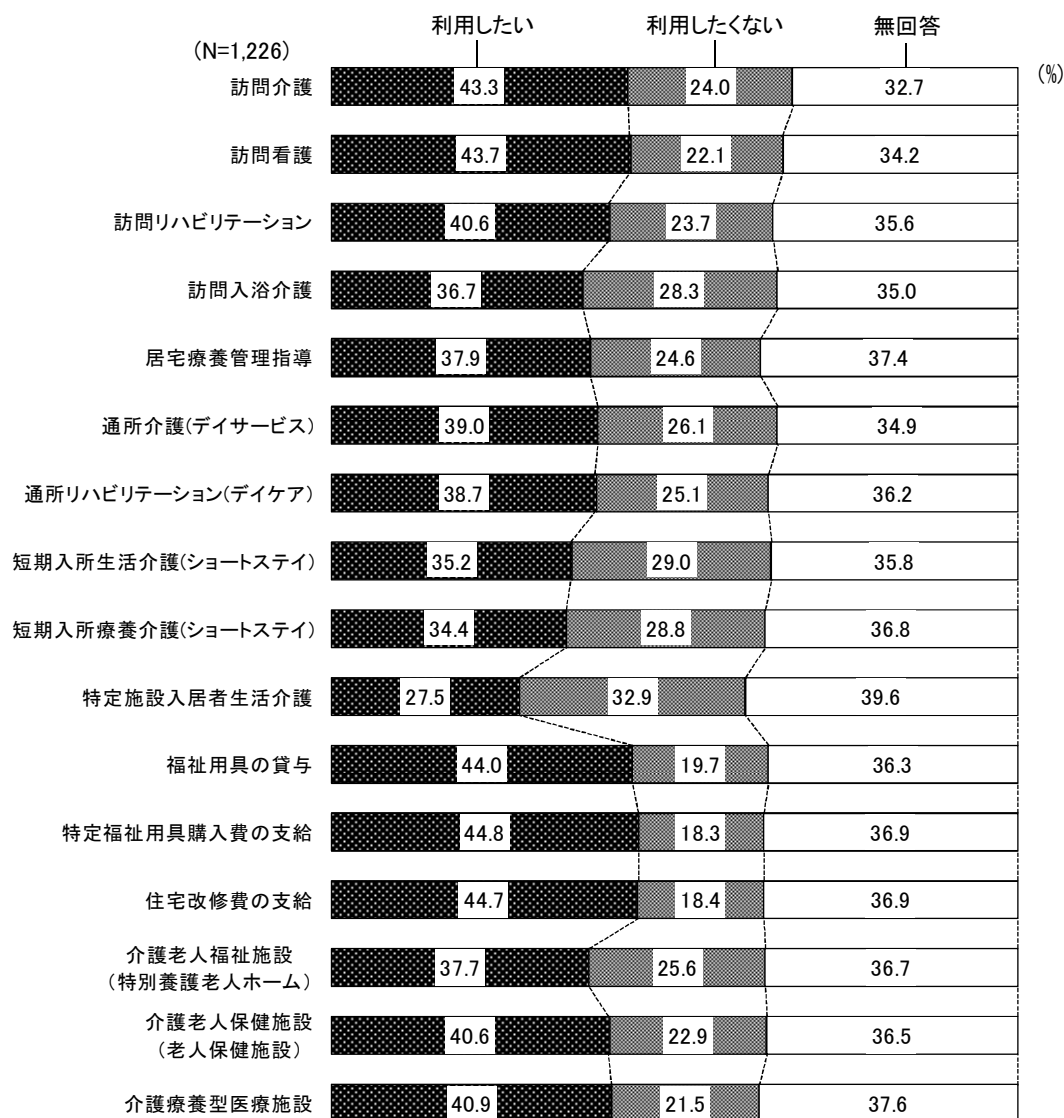
図表 2-8-2-① 介護保険サービスの認知度 (全体)



②介護保険サービスの利用意向

介護保険サービスについて「利用したい」の割合は、『特定福祉用具購入費の支給（44.8%）』、『住宅改修費の支給（44.7%）』、『福祉用具の貸与（44.0%）』が上位3項目である。（図表2-8-2-②）

図表2-8-2-② 介護保険サービスの利用意向（全体）

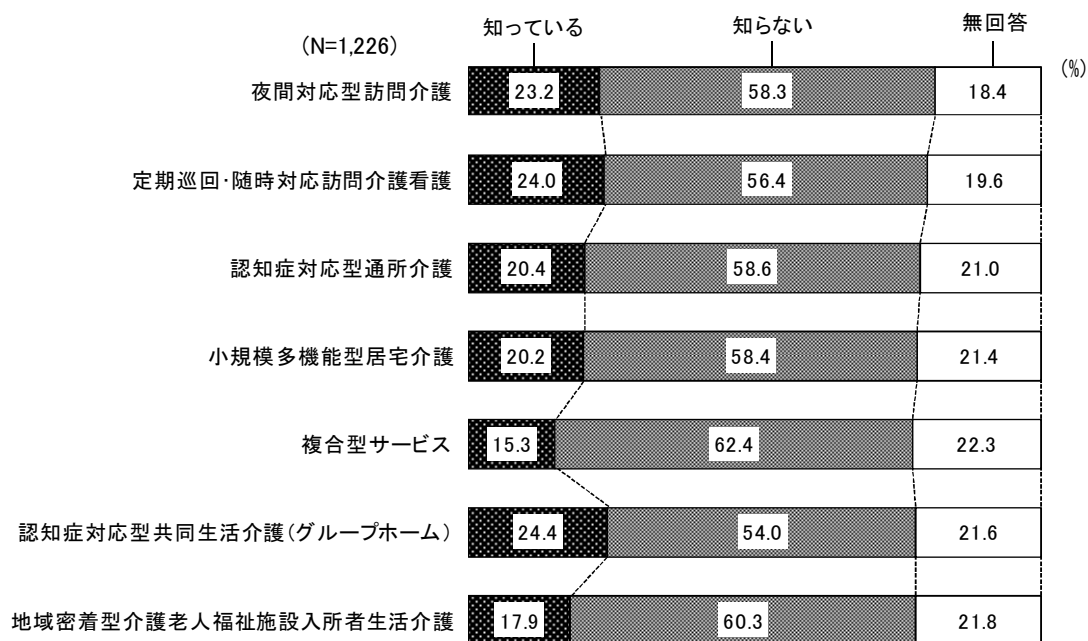


(3) 地域密着型サービス (問 31)

① 地域密着型サービスの認知度

地域密着型サービスについて「知っている」の割合は、『認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（24.4%）』が最も多く、『定期巡回・随時対応訪問介護看護（24.0%）』、『夜間対応型訪問介護（23.2%）』が続いている。（図表2-8-3-①）

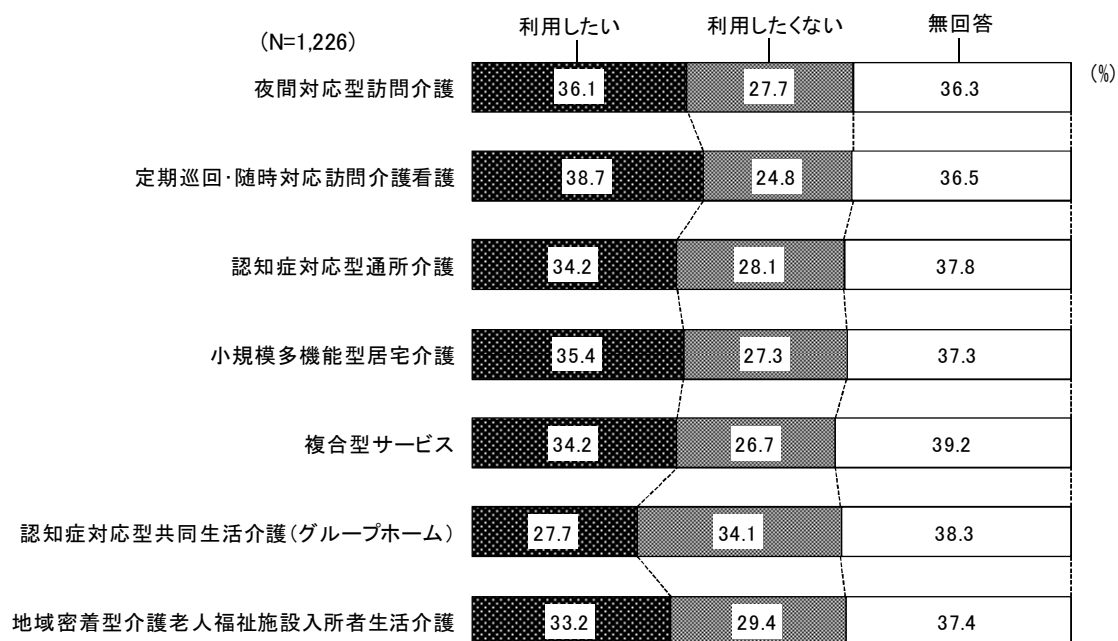
図表2-8-3-① 地域密着型サービスの認知度（全体）



②地域密着型サービスの利用意向

地域密着型サービスについて「利用したい」の割合は、『定期巡回・随時対応訪問介護看護（38.7%）』が最も高く、『夜間対応型訪問介護（36.1%）』、『小規模多機能型居宅介護（35.4%）』が続いている。（図表2-8-3-②）

図表2-8-3-② 地域密着型サービスの利用意向（全体）



(4) 介護が必要になった時に生活したい場所 (問 32)

介護が必要になった時に生活したい場所は「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい(24.1%)」が最も多く、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい(23.6%)」、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい (13.4%)」が続いている。

性・年代別にみると、男性は「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」が3分の1を占める。一方、女性は年代が上がる、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」が高率になり、「自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい」と「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」が低くなっている。(図表2-8-4)

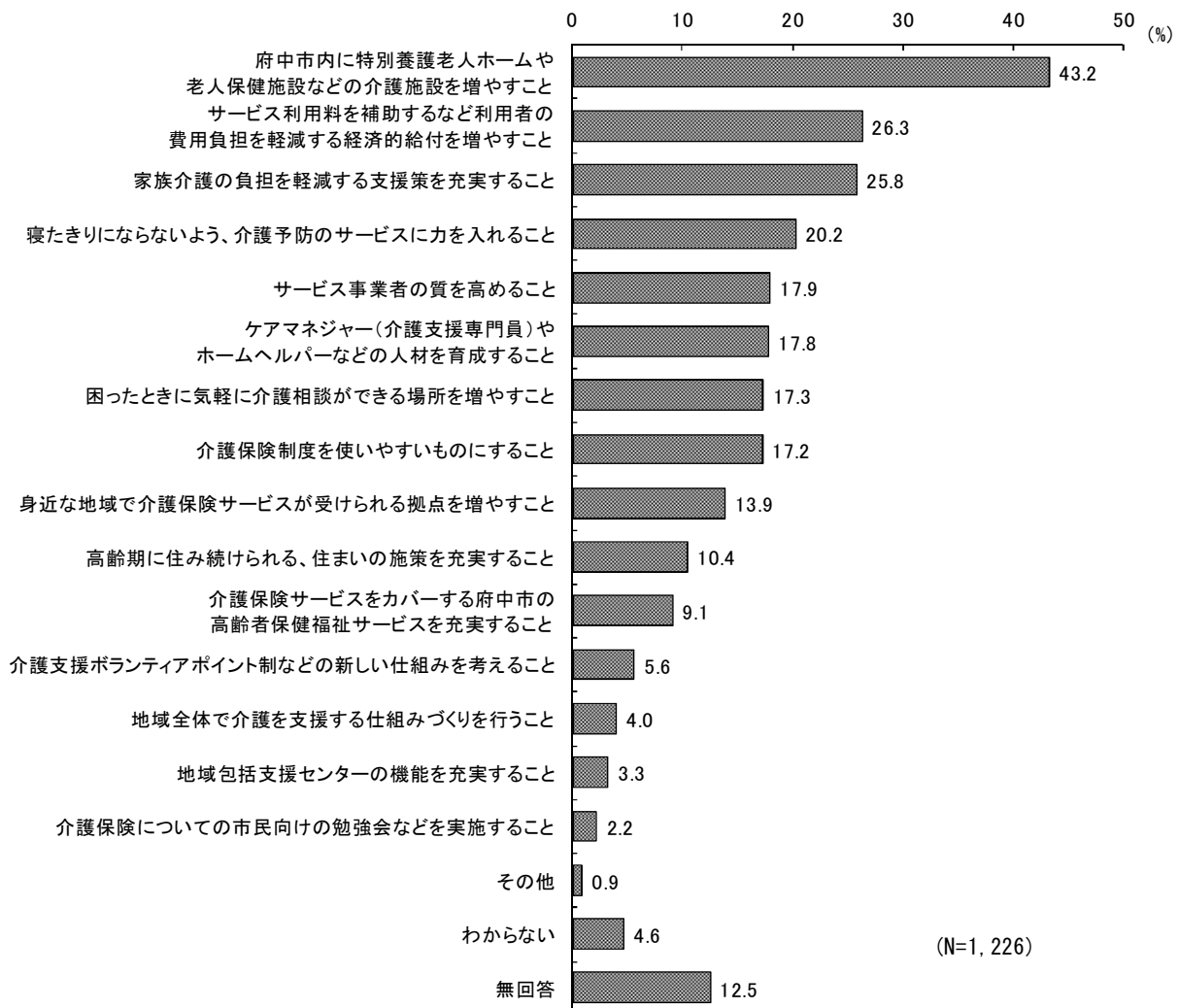
図表2-8-4 介護が必要になった時に生活したい場所 (全体・性・年代別)

		家族などの介護を受けながら自宅で生活したい	介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい	特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい	有料老人ホームに入居したい	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)に入居したい	高齢者向け生活支援サービスなどのついた見守りや生活支援サービスなどをついた	自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい	その他	わからない	無回答
全	体 (N= 1,226)	24.1	23.6	13.4	3.1	0.9	3.8	8.2	0.8	7.7	14.4
性・年代別	男性-65～74歳 (n= 309)	32.7	20.1	12.9	4.2	0.3	5.5	5.2	0.3	9.4	9.4
	男性-75～84歳 (n= 188)	33.5	24.5	12.2	2.7	0.0	2.7	5.9	0.5	4.8	13.3
	男性-85歳以上 (n= 32)	25.0	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0	3.1	0.0	6.3	40.6
	女性-65～74歳 (n= 408)	15.7	22.5	16.4	3.2	1.7	4.7	12.7	1.5	8.3	13.2
	女性-75～84歳 (n= 244)	18.4	32.4	11.1	1.6	1.2	2.0	7.4	0.4	7.4	18.0
	女性-85歳以上 (n= 32)	43.8	25.0	3.1	3.1	0.0	0.0	6.3	3.1	0.0	15.6

(5) 介護保険制度の全体をよりよくするために府中市が力を入れるべきこと (問 33)

介護保険制度の全体をよりよくするために、府中市が力を入れるべきことは、「府中市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと(43.2%)」が最も多く、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと(26.3%)」、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること(25.8%)」が続いている。(図表2-8-5)

図表2-8-5 介護保険制度の全体をよりよくするために府中市が力を入れるべきこと
(全体：複数回答(3つまで))

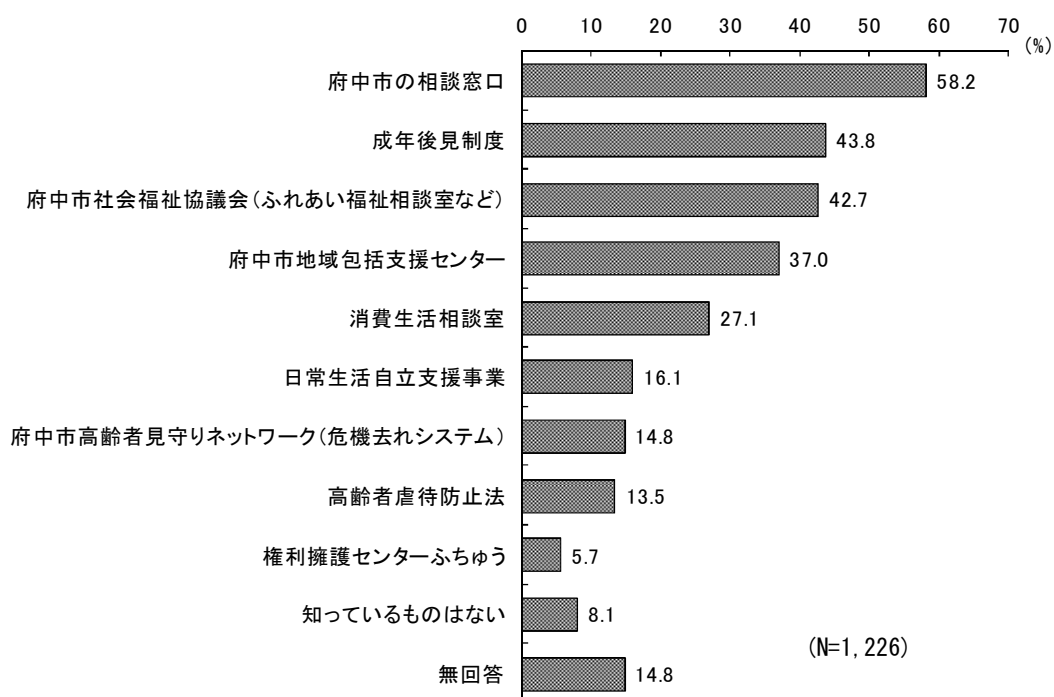


9 高齢者の権利擁護などについて

(1) 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度 (問 34)

高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度は、「府中市の相談窓口 (58.2%)」が最も多く、「成年後見制度 (43.8%)」、「府中市社会福祉協議会 (ふれあい福祉相談室など) (42.7%)」が続いている。[前回:「市の相談窓口」63.0%、「成年後見制度」37.8%、「地域包括支援センター・在宅介護支援センター」37.0%、「社会福祉協議会 (ふれあい福祉相談室など)」34.0%] (図表2-9-1)

図表2-9-1 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度 (全体:複数回答)

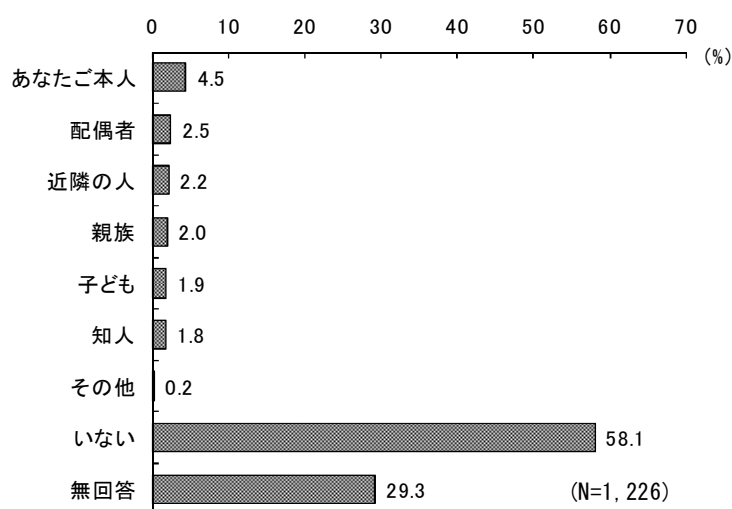


(2) 周囲で困っている人（本人を含む）

①周囲で困っている人（本人を含む）（問 35）

周囲で困っている人（本人を含む）は、「いない（58.1%）」が過半数となっている。困っている人は、「あなたご本人（4.5%）」が最も多く、「配偶者（2.5%）」が続いている。〔前回：「いない」60.5%、「本人」4.0%、「親族」2.7%、「配偶者」2.6%〕（図表2-9-2-①）

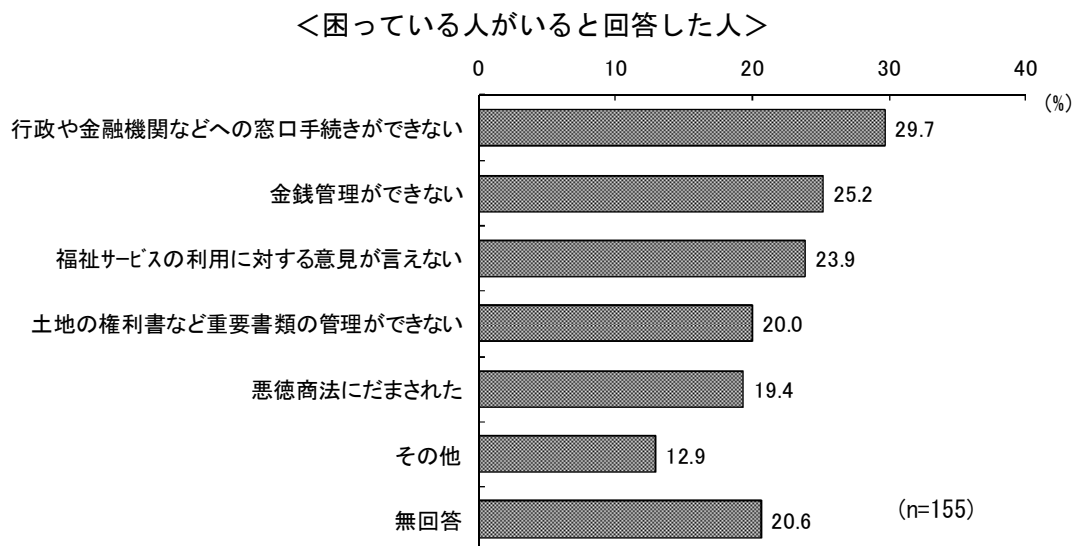
図表2-9-2-① 周囲で困っている人（本人を含む）（全体：複数回答）



②困っていること（問 35-1）

困っている人がいると回答した人に、困っていることをたずねたところ、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない（29.7%）」が最も多く、「金銭管理ができない（25.2%）」、「福祉サービスの利用に対する意見が言えない（23.9%）」が続いている。〔前回：「金銭管理ができない」27.5%、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない」25.1%、以下15%未満〕（図表2-9-2-②）

図表2-9-2-② 困っていること（全体：複数回答）



10 自由回答（問36）

高齢者保健福祉や介護保険について、意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で149件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

保険料に関する意見：36件

- ・ 医療費、介護保険料ともに高すぎる。（女性、75～79歳）
- ・ 高齢化率が高まると、現在の福祉サービスの提供を続けていては介護費は膨れ上がり、結局は市民の負担が増えます。高い年金を受給されている方はまだしも月額5万円にも満たない年金から引き落とされては介護を受けるところでない。毎日の生活にも困窮します。（男性、75～79歳）
- ・ 来年後期高齢者になりますが難病で通院していて、わずかな年金しかないので、これからの保険料が心配です。（女性、70～74歳）
- ・ 介護保険料の徴収額が年々高くなり不安です。保険料の使い途をもっと詳しく知りたい。（女性、65～69歳）
- ・ 現役世代の負担を考慮して低所得者層からも保険料を納めてもらい、公平化を図るべきである。（男性、65～69歳）
- ・ 介護保険料の段階を更に高額所得者の方向に広げ、所得に対する格差を是正してください。（男性、80～84歳）
- ・ 非課税家族は守られているが、まじめに一生懸命働いた普通の家族は負担が多い。（女性、70～74歳）

情報提供：26件

- ・ 一定の年齢に達したら（65歳とか70歳）、市から担当者が対象者の家庭を訪問するとか、小グループをどこかに集め、高齢者福祉サービスや介護予防、介護保険制度についての説明をしてほしい。（男性、70～74歳）
- ・ 知らないことが多すぎるので、どの市民にもわかるようなマニュアルをつくり、配布してほしい。一家に1冊あれば誰に何を相談すべきか、家族がいなくてもわかるような環境づくりをすれば、何かあった時の対応が早くできると思う。（女性、65～69歳）
- ・ 高齢者が増える中でインターネットなどできない人のために広報などに年に数回、情報を発信してほしい。字を読まない人のためには、テレビなどを使用して流す、高齢者は2～3度聞けばその場でわかったつもりになるが、すぐに忘れるので定期的に流す。文化センターなどの施設には紙をはり出す。町会の回覧版などで流すなど必要と思う。（女性、65～69歳）
- ・ 府中市の広報に緊急時（即時）対応ができるものを一覧表にしてくれればありがたい。介護講座、高齢者保健福祉関係（福祉サービス含む）、介護保険関係等その他情報。わかりやすい表現で表示していただければありがたいです。（男性、85～89歳）
- ・ 新聞をとっていないので広報が配達されず、市の活動、介護のこと等、状況がわからない。広報は、新聞と一緒になく戸別配達にしてもらいたい。（女性、65～69歳）

- ・ 府中市に係る特別養護老人ホーム、老人保健施設、有料老人ホーム、グループホームの施設名、待機者数、定員、所在地等を知りたいので、ホームページにのせてください。(女性、75～79歳)

施設設置等：26件

- ・ 小規模多機能型居宅介護、これが理想に近いものだと思います。(男性、65～69歳)
- ・ 自分の老後の一番の心配は、認知症になってしまった後の生活です。今は誰にも迷惑かけずにいますが、先はわかりません。その時はやはり、家族ではなく老人ホームに入って介護を受けながら生きていきたい。そんな事情もあり、府中市に老人ホームをつくっていただきたい。(女性、70～74歳)
- ・ 家族が施設入所の待機状態が続いている。要介護4です。特別養護老人ホームを増やしてほしい。(女性、65～69歳)
- ・ 現在、主人が病院に入院しています。3か月過ぎると1人で歩くことができなくても別の施設に移行しなくてはならない。特養に聞くと100人～200人待ちとのこと。仕方なく病院の有料ホームに入所することに決めましたが、これから自分たちの生活はどうなるのかとても心配です。何かよい方法があるでしょうか？(女性、80～84歳)
- ・ “いきいきプラザ”的な施設を別につくってほしい。(男性、75～79歳)
- ・ 現在府中市で霊園をつくっていると広報ふちゅうにも書いてありましたが、共同墓地及び植木墓地等もつくってください。(男性、65～69歳)

市への要望：13件

- ・ 高齢化の問題に対しては、市が自治会などの組織にもっとリーダーシップを発揮してほしい。自治会の活動がお祭りや新年会のカラオケ大会に偏りがちではないでしょうか。(男性、75～79歳)
- ・ 活動的な人は心配ないが、家に閉じこもる人をいかに外に出し、外の空気を吸わせるなどして、いかに認知症を少なくするか。また体を動かすことによりいかに保険料を少なくするかが課題であると思う。(女性、65～69歳)
- ・ もっと福祉の窓口は“おせっかい”役をすすめてほしい。生命を守ることを第一にもっと福祉は“おせっかい福祉”であってほしい。(女性、65～69歳)
- ・ 都市では近隣との付き合いが難しい。交流の機会は行政が主導して設置すべき。(男性、75～79歳)
- ・ 現在高齢者が利用している施設をやめることなく継続し、内容を充実してもらいたい。今ある施設をしっかりと守り、充実させた上に必要とする内容のアンケートをとってもらいたい。このアンケートを地域にどの程度反映できたかを知りたい。紙面にお金をかけるより現実をしっかりと見定めてもらいたい。(女性、65～69歳)
- ・ 府中市は手厚くいろいろな事業をやっていると思います。身近な所で気軽にお年寄りが集まれる場所をつくっていただけたら。例えば、一戸建ての家の一部でとか、シャッターの下りたお店を借りてはどうでしょうか。(女性、65～69歳)

介護人材育成・待遇改善：8件

- ・ 府中市が介護事業者に事業を丸投げ的にしていて、福祉サービスの実態をよく把握していないように思える。人材の質を高めてほしい。(女性、65～69歳)
- ・ 月2回ほど特別養護老人ホームでボランティア活動をしています。介護士(スタッフ)が少ないようです。今後、介護士の育成と募集案内等を充実してほしいです。(男性、70～74歳)
- ・ 特別養護老人ホームでリネン交換のボランティアを18年やっているが、お世話にならないように心がけている。現場を長い間見てきたが、職員は、腰痛、ひざが痛いのに頑張っている。もう少し職員が増えるとよいと思う。どこのホームも人が少なくて大変だと聞いている。ボランティアがいろいろ手伝っている。お給料などもう少し良くなれば、働く人もいるのではないかと。また、入所者の人にももう少し手が届くのではないかと。(女性、75～79歳)
- ・ 地域包括支援センターで働く人の努力を認め、給料を上げてほしいと思います。お給料が良ければ仕事をやめる人がなくなると思います。(女性、75～79歳)

介護保険サービス：5件

- ・ 昨年主人がいろいろな病気が重なり、病院から病院への介護タクシーが月に10万円くらいの金額になり大変でした。(女性、70～74歳)
- ・ 介護タクシー券をいただけるのはありがたいと思いますが、病院への送迎を依頼すると、券が倍必要となり、現在の枚数では年間分足りません。必要に応じてもう少し枚数を多くしていただけたら幸いです。使える枠内の金額を当事者の必要な部分に使用できます様にしていただけたらありがたいと思います。(女性、65～69歳)
- ・ 例え認知症の高齢者であっても本人の自主性、好み、尊厳を尊重する態度で接することを基本においていただきたいと。介護の現場の労働条件の改善とともに、介護にかかわるすべての人々に、相手を個性のある人間として相対する心構えを保有していただきたいと望みます。(女性、70～74歳)

その他：35件

- ・ 介護保険を簡単に利用できている人たちが見受けられ残念に思っています。日々遊ぶこともでき、旅行にもデパートに買物などにも行ける人が、介護保険が利用できている。こんなことがあつては、本当に困っている人に大変迷惑かと思えます。見直してほしいです。(女性、75～79歳)
- ・ 今は元気ですが、もし具合が悪くなったら、できるだけ家族に介護してもらいたい。家にいたい。介護保険は福祉サービスやヘルパーさんには出るかもしれないが、自宅で家族の面倒をみている人にはお金が出ないのはおかしいと思います。(女性、70～74歳)
- ・ 今月2人のひとり暮らしの方(66才と75才)が倒れましたが、それぞれ友人が居合わせ救急車を呼びました。もし、自分の部屋だったら、どうすればよいのか不安です。緊急登録システムの充実をお願いします。(女性、70～74歳)
- ・ 地域包括支援センターのサロンサービスに力を入れてほしい。また高齢者だけでなく、

子どもも集まり皆で楽しむ場が必要だと思います。月に1回くらいでよいのでやってほしいです。お願いいたします。(女性、70～74歳)

- ・ 府中市は高齢者を優遇していて感謝しています。現在、私が元気で過ごせるのは介護予防教室のおかげだと感謝しております。これからも1年4か月で終るのではなく続けて体操ができればもっとよいと思います。ひとりしているとなかなか続かないですが、日時を決められ皆さんと会っている間に仲良くなり、体操だけで終わらないメリットがあり、外出も多くなります。誰でも、いつでも参加できることを願います。(女性、75～79歳)
- ・ 高齢者や子どもの福祉について過保護になり過ぎませんようお願いいたします。盛りだくさんの事案は、ともすれば自助努力を消しかねません。何でもしてもらえと思い込みます。困っている人をよくみて、本当に困っている人を助けてあげてください。介護予防も大変結構ですが、元気に自分なりに考えて実行している人もたくさんおります。高齢者の甘やかしは禁物です。(女性、85～89歳)